

2016年度入学生用 総合情報学部

I 授業の履修について

II 学科教育課程表および
履修方法について

総合情報学科

大学院開講科目
履修制度

III 教職課程について

IV Toyo Global Leader (TGL)
プログラムについて

V 海外留学・海外研修プログラム
について

VI 学籍および各種証明書について

諸 注 意

- ・この『履修要覧』には、2016年度入学生に適用される内容を掲載しています。
- ・この『履修要覧』は、卒業時まで使用します。再配付しませんので、大切に使用・保管してください。
- ・講義内容に関しては、「ToyoNet-G」で公開しています。
利用方法については、『ToyoNet-G利用ガイドブック』を参照してください。
- ・記載内容の変更については掲示にてお知らせします。

学籍番号									
氏 名									

目 次

建学の理念と創立者 井上円了	3
学部長挨拶——総合情報学部長・杉本富利	4
総合情報学部総合情報学科の教育研究上の目的	5
総合情報学部総合情報学科3つのポリシー	5

I 授業の履修について

1 学修にあたって	8
2 授業	10
3 履修登録	12
4 試験	13
5 成績評価	14

II 学科教育課程表および履修方法について

1 総合情報学科カリキュラムの特徴	19
2 卒業要件・卒着条件について	21
3 コース分けについて	24
4 履修について	24
5 教育課程表の見方・科目ナンバー	25
6 学科教育課程表	27
7 総合情報学科カリキュラムマップ	36
8 総合情報学科開講科目一覧	38
9 大学院開講科目履修制度について	43

III 教職課程について

1 教育職員免許状取得について	46
2 教育実習	49
3 免許状の申請および教員採用について	50
4 教育職員免許状取得までの流れ（スケジュール）	52

IV Toyo Global Leader (TGL) プログラムについて

V 海外留学・海外研修プログラムについて

VI 学籍および各種証明書について

1 学籍（学籍異動に関する手続き）	64
2 各種証明書および実習料一覧	70
3 学則（学籍に関する事項の抜粋）	71

建学の理念と創立者 井上円了

建学の理念

○建学の精神

「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」

○東洋大学の教育理念

【自分の哲学を持つ】

多様な価値観を学習し理解するとともに、自己の哲学（人生観・世界観）を持つ人間を育成する。

【本質に迫って深く考える】

先入観や偏見にとらわれず、物事の本質に迫る仕方で、論理的・体系的に深く考える人間を育成する。

【主体的に社会の課題に取り組む】

社会の課題に自主的・主体的に取り組む、よき人間関係を築いていける人間を育成する。

○東洋大学の心

【他者のために自己を磨く】

自分を磨くのは、人々のためにはたらくことができるようになるためであり、そのことを自覚して学業に励むのが東洋大学の心である。

【活動の中で奮闘する】

現実社会における活動の中にどこまでも前進してやまないのが、東洋大学の心である。



創立者 井上円了 博士
画：岡田 三郎助

東洋大学は、明治20（1887）年、哲学者・井上円了が創立した「私立哲学館」によってその歴史が始まりました。円了は幕末の安政5（1858）年、越後国長岡藩西組浦村（現在の新潟県長岡市浦）のお寺の長男として生まれ、明治14年、設立間もない東京大学文学部哲学科にただひとりの1年生として入学しました。勉学を通して「洋の東西を問わず、真理は哲学にあり」と確信します。当時のわが国は欧米文化至上主義の時代で、円了は西洋化に踊らされる日本を憂えていたと思われます。ここでいう哲学とは、「万物の原理を探り、その原理を定める学問」であり、それは観念的演繹的な哲学ではなく、事実と実証に基づく哲学であるという点が強調されました。

円了は創立前に「哲学はあらゆる事物の原理を定める学問であります。政治、法律はもとより科学や芸術まで、その根底には哲学がなくてはなりません」と述べています。この考えから明治20年「私立哲学館」という哲学専修の私立学校を創立しました。これが現在の東洋大学の前身にあたります。

円了が教育で目指した哲学は、いわゆる「哲学者」の養成ではなく、思想や精神を錬磨する術（すべ）であり、他に応用する能力も身につけなければならないものであると説いています。

哲学という言葉が初めて使われた明治時代から、哲学の欠如が問われている現在までの125年以上にわたり、東洋大学も激動の歴史を歩みながら、創立者井上円了の教育理念を継承してきました。

哲学館創立以降に、円了は「余資なく、優暇なき者」のために「社会教育」と「開かれた大学」を目指して活動を開始しました。その一つに、学校開設の翌年から『哲学館講義録』を発行して、通学できない者にも勉学の機会を与えました。これは当時としては画期的なことであり、この精神は現在の通信教育部に受け継がれています。

さらに、円了は30代から生涯続けることになる全国巡講を始めています。統計に残っている明治39年から大正7年までの13年間で、全国60市、2198町村において5291回の講演を行い、社会教育に力を入れました。明治の日本に新しい教育の扉を開こうとした円了の情熱がうかがえます。この心を引き継いで現在の東洋大学では「開かれた大学」を目指し、講師派遣事業や公開講座など、地域のみならず全国の人々に生涯学習の場を提供しています。



学習目標を定め、達成のために努力せよ！ ～努力は報われる～

総合情報学部長 杉 本 富 利

総合情報学部の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

総合情報学部は、従来の文系・理系の枠を超えて、情報通信技術（ICT）を経済、文化、芸術、環境、心理などの様々な分野の知識と融合させ、その融合によって社会のあらゆる領域で、情報の高度な利活用を先導する「第一級の情報の創り手・使い手」となる人材を育成する目的で2009年に開設されました。ICTがあらゆる産業界の津々浦々まで浸透し、社会インフラとなった現代社会においては、この「情報の創り手・使い手」は必要不可欠な人材であることは疑いの余地がありません。総合情報学部のカリキュラムは、このような時代を先導する「情報の創り手・使い手」を育成するという教育目標を達成するために編成されています。そして、この履修要覧は学生諸君が自己の学習目標を達成するためのガイドブックとなります。

2016年度からは新しいカリキュラムがスタートします。このカリキュラムの最大の特徴はコース制を導入したことです。専門科目はコースごとに配置されており、皆さんは2学年進級時に「システム情報コース」「スポーツ情報コース」「メディア文化コース」のいずれかに所属することになります。コース制ではコース内の専門科目の単位修得要件が定められていることから、各自の専門領域を深く学べるとともに、学習目標が定めやすくなるというメリットがあります。また他コースの専門科目の単位修得要件も付加されており、総合情報学の学問領域をコースの枠にとらわれず幅広く学ぶことを求めています。さらに、ICTスキルおよびビジネスに関する知識を卒業までに確実に身につけるカリキュラムが用意されています。

学生諸君には、まずは1学年において情報科学に関する基礎的な技能と知識を習得し、一般教養としての語学力やコミュニケーション能力などを身につけて欲しいです。また各コースの入門的な専門科目を履修して各コースの専門領域を理解し、2学年進級の際のコースの選択に役立ててください。そして、2学年以降においては各コースの高度な専門知識を学び、最終学年では卒業研究あるいは卒業制作によって、それまでに蓄積したスキルや知識を駆使して新たな問題を発見し、その問題の解決方法を自ら考え出すことを実践してください。

このカリキュラムのもう一つの特徴はクォーター制を2学年から導入することを予定していることです。クォーター制は学期の半分（クォーター）で一つの科目を習得する制度です。この制度の下では履修科目のないクォーターを作り出すことが可能となり、そのクォーターを夏季休暇や春季休暇と統合することで長期の自由な時間を創出し、それを海外留学、インターンシップ、ボランティア活動、あるいは運動部選手の合宿・大会参加などに利用できます。クォーター制は学生諸君が密度の高い学生生活を送ることを可能にしてくれます。

東洋大学の建学の精神に「諸学の基礎は哲学にあり」、「独立自活」という言葉があります。これは学生諸君に自分の生き方の規範となる考え（フィロソフィー）を持つこと、そして自分のフィロソフィーに基づいて自ら考え自ら行動することを求めています。高齢化・少子化、産業構造の多様化、グローバル化などによって激動する21世紀において、価値観の変化、社会の変化、技術の変化、職場環境の変化に対して自己の本質を見失うことなく、あらゆる問題に柔軟に対応するためには確固としたフィロソフィーが必要なのです。

また、建学の精神に「知徳兼全」という言葉があります。大学では技術と知識を学び、「知」を得ることが第一義的に重要ですが、教職員、同期の学生、先輩・後輩など多くの人間と交わったり、留学プログラムを利用して海外で学んだりして、自分とは違う多様な考え方、生き方に触れることによって「人徳」を身につけることも重要です。多いに学び、多いに交わって「知徳兼全」を実践して欲しいと思います。

総合情報学部総合情報学科の教育研究上の目的

1 人材の養成に関する目的

従来の文系・理系の枠を超えて、社会・経済・環境・スポーツ・心理・文化・芸術などの多様な分野で情報学の新たな教育研究分野の開拓を進め、情報通信技術（ICT）の高度な利活用を先導する、哲学を持った「第一級の情報の創り手・使い手」を育成することを、総合情報学部の目的としています。

2 学生に修得させるべき能力等の教育目標

本学部の教育の目標は、以下の能力を養うことにあります。

- (1) ICTの学問内容及びその活用方法を理解する能力
- (2) ICTを企業経営に生かすための学問内容及びその活用方法を理解する能力
- (3) 自律的に問題の所在を発見し、多面的かつ論理的に分析する能力
- (4) ICTの知識を実践へと高め、社会における諸問題の解決に寄与できる能力
- (5) 他者と有効にコミュニケーションと協業ができる能力

3 その他の教育研究上の目的

本学部の教育研究上の目的は、個々の人間・集団としての組織・学術環境の有機的相互作用によって知識情報社会の革新に貢献し、ICTを情報・スポーツ・メディアなどの多様な分野で活用しつつ、産官学の連携により、新たな総合情報学の知の拠点を確立することにあります。

総合情報学部総合情報学科 3つのポリシー

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

情報通信技術（ICT）は、日常生活はもとより、あらゆる社会活動や経済活動に欠かせない社会基盤となっています。総合情報学科は、このような21世紀社会を強く認識し、従来の文系・理系の枠を超えて、情報学の新たな教育研究分野の開拓を進め、情報の高度な利活用を先導する、哲学を持った「第一級の情報の創り手・使い手」を育成する目的で設立されました。

総合情報学科は、基盤となる情報通信技術を活用し、経営やビジネス感覚を持って情報システムの開発や管理ができる人材、環境経営・CSR（企業の社会的責任）経営を含めた先進的な企業経営を担える人材、スポーツにおける心理・生体情報の測定や器具の特性解析から高度な解析・分析技術などを活用できる人材、高度なメディアやコンテンツに関する理論と制作技法を身につけ、制作したものを文化や社会の発展に生かせる人材を育成します。また、これらの情報通信技術を生かした社会において欠かせない実践的な英語活用能力の醸成を重視します。以上のことから、具体的に以下のような学生を募集します。

- (1) 物事を多面的かつ論理的に分析することができる人
- (2) 人間、文化や社会の諸問題への深い関心と解決への意欲のある人
 - ・ 文系・理系、コンピュータの得意・不得意にかかわらず、企業経営やシステム開発、スポーツを題材とした心理・生体、メディアを活用した表現や文化に興味がある人
 - ・ 情報通信技術だけでなく、企業経営・経済、環境、スポーツ、歴史・文化などの幅広い分野に興味のある人
- (3) 情報通信技術を人間、文化や社会の発展に生かそうと考えている人
- (4) 総合情報学という学際的な学問分野を本学教職員や他の学生とともに開拓しようという強い意思のある人

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

総合情報学科では、現代社会の基盤の1つである情報通信技術（ICT）を、文系・理系の枠組みを超えた様々

な分野で利活用するための高度な知識力、判断力、技術力を養うことを目標とし、教育課程を学科共通と下記の3コース

- ・「システム開発・管理・運営」領域を基軸とするシステム情報コース
- ・「身体・心理情報の解析」領域を基軸とするスポーツ情報コース
- ・「コンテンツ作成・表現」領域を基軸とするメディア文化コース

から構成します。学生には1つのコースを主幹コースとして選択させ、各専門領域の教育を行います。

【共通】

- (1) ICTの基礎知識を養う教育を行います。
- (2) マネジメント・企画等の企業経営を養う教育を行います。
- (3) 社会人として備えておくべき社会性・感性・創造力やグループによる活動を養う教育を行います。
- (4) 社会調査の知識や技術を養う教育を行います。
- (5) 国際化に対応したコミュニケーション能力を伸ばすために、4年一貫の英語教育を行います。

【システム情報コース】

システム情報コースでは、以下の方針に沿って教育課程を編成しています。

- (1) ICTを活用したシステムを「提供する側」および「利用する側」双方の能力を持ち合わせた人材を育てる教育を行います。
- (2) ICTを活用したシステムを「提供する側」の視点から、システム・ソフトウェア開発能力やシステム管理・運営能力を養う教育を行います。
- (3) ICTを活用したシステムを「利用する側」の視点から、組織マネジメント能力、経営・財務マネジメント能力、製品・サービス企画能力を養う教育を行います。

【スポーツ情報コース】

スポーツ情報コースでは、以下の方針に沿って教育課程を編成しています。

- (1) ICTを活用し、スポーツ器具・用具の運動特性や運動する身体やゲーム中のプレイヤーの動きを測定・解析し、科学的に理解・説明する能力を養う教育を行います。
- (2) スポーツにおける心理／生理的反応・生体機能・行動分析に関する理論と技術を養う教育を行います。
- (3) スポーツの歴史・思想・文化・芸術・教育について学び、スポーツに関する幅広い知識と教養、社会性を養う教育を行います。

【メディア文化コース】

メディア文化コースでは、以下の方針に沿って教育課程を編成しています。

- (1) ICTを活用するシステムを利用したコンテンツの創り手・使い手として、基礎知識から応用技術までを持ち合わせた人材を育てる教育を行います。
- (2) コンピュータを用いて様々な現象を視覚的に表現する能力や、多様なメディアコンテンツやアプリケーションを自在に作成する能力を養う教育を行います。
- (3) 文理双方の不足を補いつつ、人の営みを多面的に捉える能力を養う教育を行います。また、哲学・倫理・芸術・文化・歴史・社会を広く学び、時代と社会の変化・多様化に対応できる柔軟な知性と教養、社会性を養う教育を行います。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

総合情報学科では、下記の能力を備えた学生に学士（情報学）を授与し、卒業を認めます。

- (1) 情報通信技術の学問内容及び活用方法を理解する能力
- (2) マネジメント・企画等の企業経営の学問内容及び活用方法を理解する能力
- (3) 様々な人間の営みと情報との関係について、自律的に問題の所在を発見し、工学・社会科学・人文科学等多面的かつ論理的に分析する能力
- (4) 自分の役割を自覚し情報通信技術の知識を実践へと高める能力
- (5) 社会の諸問題に情報通信技術を寄与できる能力
- (6) 他者と有効にコミュニケーションと協業ができる能力

I. 授業の履修について

1. 学修にあたって

・学 期

本学部ではセメスター制を採用しています。セメスター制では1年を2つの学期（セメスター）に分け、4年間は8つのセメスターに分けられます。各学期（セメスター）単位で授業が完結し、補講期間と定期試験期間を含みます。

本学では、各学期（セメスター）を

春学期 4月1日から9月30日まで

秋学期 10月1日から翌年の3月31日まで

と分けています。

※ただし、春学期の終了日及び秋学期の開始日は年度によって異なりますので、『学生生活ハンドブック』で確認してください。

1 学年	第1 セメスター
	第2 セメスター
2 学年	第3 セメスター
	第4 セメスター
3 学年	第5 セメスター
	第6 セメスター
4 学年	第7 セメスター
	第8 セメスター

・修業年限と在学年数

修業年限は4年（8セメスター）です。

在学年数は、通算して8年（16セメスター）が限度となります。

ただし、休学期間は在学年数に算入しません。

・単位制

科目の履修にあたり単位制を採用しています。単位制とは、単位数によって卒業要件が定められる制度です。単位は、履修した科目に対して一定の合格基準（科目の単位数に見合う授業時間および試験での成績）を満たすことにより与えられます。

本学の授業時間は**90分を1コマ**として各セメスターに15回実施されます。講義は1コマで2単位、実験・演習・実習・実技は1コマで1単位となります。

なお、講義の場合は予習と復習にそれぞれ90分、実験演習系科目の場合は予習または復習のいずれかに90分が必要ということになります。予習や復習の時間を考慮し、履修科目の適切な学修時間を確保するために、1セメスターあたりの履修登録単位数は**24単位を上限**としています。ただし、教職科目には例外があります。（履修についての注意事項P.10(8)を参照）

なお、履修科目の単位修得には、授業回数の**3分の2以上の出席**が条件となっています。

種 別	単 位 数
講義科目	1 コマで2 単位
実験・演習・実習・実技科目	1 コマで1 単位

・卒業要件と卒着条件

卒業要件とは卒業のために必要な要件を定めたものです。

卒着条件とは『卒業関係科目着条件』の略称です。4年次に配当されている卒業研究・制作Ⅰを履修するためには卒着条件1を満たすことが条件であり、卒業研究・制作Ⅱを履修するためには卒着条件2を満たすことが条件です。また、卒着条件1を満たすことが、卒業見込証明書の発行条件となります。

卒業要件および卒着条件は詳細に定められていますので、説明をよく読んで確認してください。

なお、基盤教育・学科共通科目・専門科目の各区分においてそれぞれに必要な条件単位数を合計しても、卒業や卒着に必要な条件単位数にはなりませんので、注意してください。指定されている単位数はあくまでも各区分において最

- ・ 必修科目
- ・ 選択必修科目
- ・ 選択科目

低限必要な最少修得単位数を示していますので、実際には、それ以上の単位の修得が必要です。

科目には、履修の重要度に応じて、

- ・ 必修科目
- ・ 選択必修科目
- ・ 選択科目

という区分があります。

必修科目とは、必ず修得しなければならない科目です。

選択必修科目とは、指定された科目群の中から指定された単位数以上の修得を必要とする科目です。ここに指定された科目は優先的に履修してください。

選択科目とは、幅広い知識を吸収して、個人の進路に応じた適切な講義内容を選択して履修できる科目です。

- ・ 科目の配当学年

それぞれの科目には、どの学年で履修すべきかが定められています。これを**配当学年**といいます。配当学年が自分の学年よりも上位学年の科目を履修することはできません。配当学年が自分の学年よりも下位学年の科目は履修することができます。

- ・ 履修についての注意事項

(1) 教育課程表

入学年度の所属学科の教育課程表（カリキュラム）が卒業まで適用されます。入学時の教育課程表に存在しない科目は履修できません。4年を超えて在籍した後にカリキュラム変更になった場合には、その新旧科目対応表を参照して必要な科目の対応科目を履修してください。

(2) 科目名称

科目名の後に付く記号のうち、「Ⅰ・Ⅱ」は望ましい履修順序を示し、「A・B」は内容や分野の違いを示しています。

(3) 履修登録単位数制限

1セメスターに履修登録できる単位数は、**24単位以内**です。ただし卒業単位として認定されない教職課程の科目については制限対象外です。

(4) 再履修

履修しても、単位修得できなかった科目は、再度履修登録することができます（このことを再履修といいます）。なお、単位修得した科目は、再度履修登録することはできません。

(5) クラス指定

クラス指定された科目はその指示に従って履修登録しなければなりません。再履修の場合は、下の学年の同じクラスを履修することを基本とします。ただし、必修科目や選択必修科目が時間割上重複する場合に限り、**指定クラス外履修申請**を指定された期間中に、教学課窓口に提出することで、指定されたクラス以外の科目を履修することができます。

(6) 他学部科目の聴講

他学部の専門科目は、実験、実習、演習科目を除き履修することができ、卒業単位に認められます。ToyoNet-Gでは履修登録することはできませんので、履修登録を希望する場合には、履修登録期間中に教学課に問い合わせてください。ただし、この単位数は、1セメスターの履修登録単位数制限（24単位）の中に含まれますので、自学科に必要な科目の履修を優先したうえで、十分考慮して履修してください。

(7) 大学院開講科目の聴講

大学院総合情報学研究科との連携を強め、大学院への進学を希望する学生に対して学部の中から専門的な学修の継続を図ることを目的として、総合情報学部3年次以降に大学院開講科目を履修できる「大学院開講科目履修制度」を導

・学士の学位授与

2. 授 業

・授業時間

入しています。詳細については「9. 大学院開講科目履修制度について」を確認のうえ、教学課窓口にお問い合わせください。

(8) 教職課程

「教職に関する科目」については、卒業に必要な単位として認められません。これらの科目は1セメスターあたりの履修登録できる単位数制限（24単位）の対象外となります。（Ⅲ. 教職課程についてP.48(4)②教職に関する科目を参照）

(9) 集中授業

集中授業については、授業に参加する学期に履修登録してください。ただし卒業する学期には履修登録できません。

卒業要件を満たし、修業年限を経過した者には、**学士（情報学）**の学位が授与されます。

授業科目は、春学期または秋学期のいずれかに開講されますが、春秋両学期に開講される科目もあります。

授業時間は90分を1時限とし、以下の表の通り1日5時限分を開講します。

時 限	時 間
1 時限	9 : 00 ~ 10 : 30
2 時限	10 : 40 ~ 12 : 10
昼休み	12 : 10 ~ 13 : 10
3 時限	13 : 10 ~ 14 : 40
4 時限	14 : 50 ~ 16 : 20
5 時限	16 : 30 ~ 18 : 00

授業科目によっては、連続した複数の時間帯に開講する科目もあります。また、同じ科目を週2回以上開講する科目もあります。

・休講

教員のやむを得ない理由（学会出張等）により授業を休講にすることがあります。

休講情報は、4号館1階教学課前ディスプレイに掲示します。また、ToyoNet-Gでも確認することができます。電話での問い合わせには一切応じません。

なお、休講の指示がなく、授業開始時刻を30分以上経過しても授業が開始されない場合は、教学課窓口へ連絡の上、指示を受けてください。

・補講

次のような場合で、補講を実施するときは、その内容を4号館1階教学課前に掲示します。

① 授業が休講になった場合

② その他の理由で補講・集中講義を必要とする場合

なお、補講は原則として各学期末の補講期間に行いますが、それ以外の日に実施することもありますので、担当教員の指示に従ってください。

・欠席

やむを得ない事由により、授業に欠席した場合は、次の授業時に担当教員へ欠席届を提出してください。欠席届は教学課窓口で配付します。

なお、病気・怪我等で長期欠席することが予想される場合は、事前に教学課に相談してください。

また、教育実習により欠席する場合は、説明会時に配付する欠席届を担当教員に提出してください（Ⅲ. 教職課程についての章を参照）。

・ オフィスアワー

学生の質問や相談に対し、教員は日常的に時間の許すかぎり、いつでも対応するように努めていますが、学生の便宜をいっそう図るため、オフィスアワーを設定しています。

(1) オフィスアワーとは

正課の授業とは別に学生と教員のコミュニケーションを密接にする場として設けた時間帯のことです。あらかじめ設定された時間帯に専任の教員が研究室で待機し、学生からの質問や相談を受けやすくするための制度です。学生は、自分の所属する学科の教員だけでなく、どの学部・学科の教員を訪ねてもかまいません。

オフィスアワーでは、授業内容に関する質問や、単位修得について、学習の進め方、履修登録プランなどの相談のほか、レポート指導など、学習に関することをはじめ、卒業後の進路、転部・転科、休学などの進路に関すること、留学、就職、大学院進学のための推薦状に関することなど、学生生活全般にわたって個人的な相談をすることができます。

先生方は、学生の皆さんの様々な相談に応じ対処していただきますが、対処しきれない事柄については、他の専門の先生や、学内外の適切な関係者（組織）をご紹介くださるでしょう。

(2) オフィスアワーの活用方法

オフィスアワーを活用する際は、ToyoNet-Gのシラバス「教員プロフィール」に記載されている「オフィスアワー」の時間帯を確認し、研究室を訪問してください。予約が必要な場合もありますので、その場合は確認をしてから訪問してください。

・ 交通機関がストップしている場合の授業の取扱い

詳細は大学ホームページ、『学生生活ハンドブック』にて確認してください。

・ 掲示板

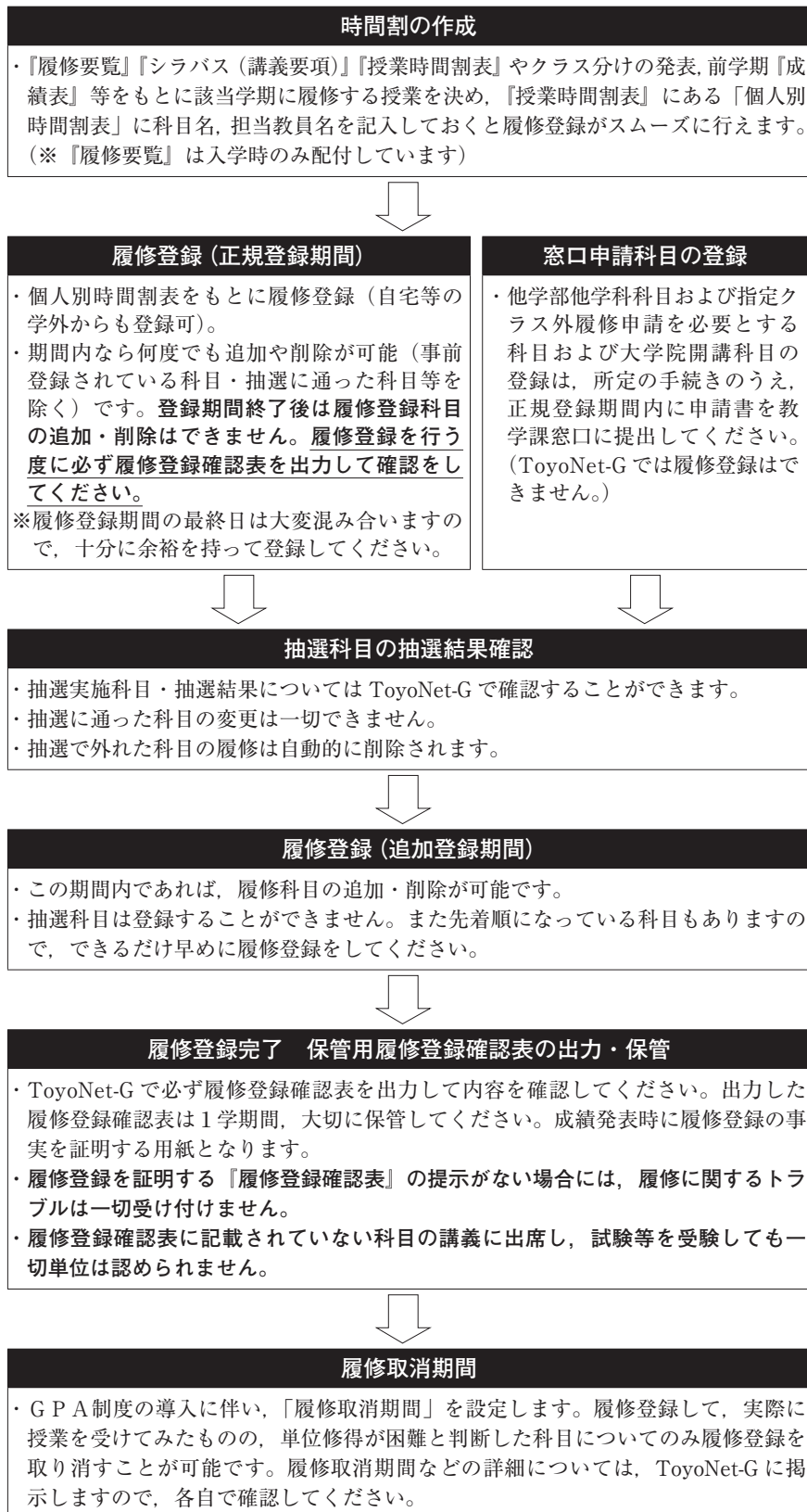
学生への連絡事項や休講情報を4号館1階教学課前掲示板・ディスプレイ・1号館学科掲示板ならびにToyoNet-Gに掲示しますので、各自で確認してください。

3. 履修登録

・履修登録の流れ

履修登録は、春学期の開始時と秋学期の開始時の年2回、ToyoNet-Gを利用して行います。詳細については『ToyoNet-G 利用ガイドブック』を参照してください。

《履修登録の流れ》



4. 試験

・試験の種類

履修した科目の単位を修得するには、授業回数の3分の2以上出席し、所定の試験に合格しなければなりません。

この成績評価を行うための試験は、筆記（レポートを含む）または口頭により行います。

- ① 定期試験（学期末試験）
- ② 平常試験

・定期試験(学期末試験)

定期試験は各学期末の一定の期間（春学期は7月下旬～8月上旬，秋学期は1月下旬～2月上旬）に行います。定期試験は定期試験時間割に従って実施されます。平常時の時間割と異なりますので注意してください。

・平常試験

平常試験は、担当教員の指示において、平常の授業時間帯に随時行う試験です。

・試験の受験資格

次のいずれかに該当するときは、試験を受験できません。

- ① 履修登録をしていない科目
- ② 学生証を携帯していないとき
- ③ 休学及び停学期間中
- ④ 試験開始後20分を経過したとき

・試験日の発表

試験の日時、場所、方法等は以下のように発表します。

- ① 定期試験は、試験開始の約1週間前に、定期試験時間割をToyoNet-Gに掲示しますので各自で確認してください。
- ② 平常試験は、担当教員が指示します。

・定期試験当日の注意事項

受験にあたっては以下のことに注意してください。

- ① 試験時間は50分です。試験開始後20分を過ぎても試験会場に入室していない場合は受験資格を失います。また、試験開始後25分を過ぎないと退場できません。中途退場した場合、再入場は認めません。
- ② 受験の際、学生証を表（写真側）にして机の上に置いてください。万一、学生証を忘れた場合には、教学課で「仮学生証」の交付を受けてから受験してください。
- ③ 試験会場は試験時間割で指定します。
- ④ 試験会場では、監督者の指示に従ってください。
- ⑤ 答案用紙に黒のペンまたはボールペンで学籍番号・氏名を必ず記入してください。なお、一方でも記入のない答案は無効となります。
- ⑥ 試験会場への持ち込みが許可されているものであっても、学生間での貸し借りは不正行為とみなします。
- ⑦ 試験会場では、携帯電話、PHS等の通信機能を持つ電子機器を机上に置けません。また机上に置かない場合でも、試験の妨げとならないよう電源を必ず切ってください。また、時計代わりの使用も禁じます。
- ⑧ 試験会場への飲食物の持ち込みを禁止します。
- ⑨ 病気、天災、その他やむを得ない理由によって試験を受けられなかった場合、1週間以内に診断書（コピー可）または証明書等を添えて教学課窓口で所定の手続をしてください。

・不正行為の処分

試験会場において、試験監督者の指示に従わないなどの不正な行為があったときには、退室を命じ、学則（第57条）に基づき処分されます（『学生生活ハンドブック』参照）。

5. 成績評価

・単位の認定

- ① 単位は、試験やレポート等の結果による成績評価に基づいて認定されます。なお、単位認定されるためには、履修登録した科目の授業に3分の2以上出席しなければなりません。
- ② 履修登録した科目についてのみ成績評価されます。履修登録のない科目を単位認定することはできません。

・成績の評価

成績評価基準は、原則として以下のガイドライン（東洋大学成績評価基準）に則って行います。

各科目の評価基準については、シラバス（講義要項）を参照してください。試験の成績は、100点満点の60点以上を合格とし、それ未満は不合格となります。

合否	成績表示	点数	基準
合格	S	100～90	到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。
	A	89～80	到達目標を十分に達成している。
	B	79～70	到達目標を達成している。
	C	69～60	到達目標を最低限達成している。
不合格	D	59～40	到達目標を達成していない項目がある。
	E	39以下	到達目標の項目の全てまたはほとんどを達成していない。
	*	評価対象外	出席・試験・レポート提出等の評価要件を欠格。

※上記表の他に、留学での学修成果などを単位認定するため「T（Transferの略）」を合格の評価として使用します。

・TOEICスコアによる単位認定

TOEICスコアによる単位認定

認定対象科目	認定評価	TOEIC スコア	認定可能単位数
Remedial English I	S	450点以上	2科目2単位
	A	400点以上	
Remedial English II	S	550点以上	
	A	500点以上	

申請から認定まで

- ① 申請日から遡って過去1年以内に実施された、TOEIC公開テスト、または東洋大学で実施のTOEIC IPテストを対象とします。
- ② 履修登録期間内に単位認定のための申請手続き、および単位認定対象科目の履修登録を行ってください。
- ③ 申請手続きには、申請用紙とTOEIC Official Score Certificate（公式認定証）、または本学主催のTOEIC IPテストのスコアレポート（いずれもコピー不可）を提出してください。
- ④ 申請した科目の授業終了後、成績発表とともに単位が認定されます。提出されたスコアレポート（本証）は単位認定後返却します。

・短期語学セミナーによる単位認定

本学で実施している「短期語学セミナー」（英語・中国語）に参加し、条件を満たすことにより以下の科目の単位を認定します。

「英語と文化」「中国語と文化」

・成績の発表

※セミナーの詳細については、「V. 海外留学・海外研修プログラムについて」を参照してください。

成績表は、春学期は9月、秋学期は3月にそれぞれ ToyoNet-G にて公開します。成績表公開期間については、ToyoNet-G に掲示しますので、各自で確認してください。成績表の出力方法については『ToyoNet-G 利用ガイドブック』を参照してください。

※卒業該当学期に卒業再試験受験対象者で受験を希望する場合は、教学課窓口にて所定の手続きを行う必要がありますので注意してください。

・GPA制度

2013年度以降入学生より、GPA (Grade Point Average) 制度を導入しています。GPAとは、授業科目ごとの成績に対して、4.0～0.0のグレード・ポイントを付与し、この1単位あたりの平均を算出したもので、学生の学習到達度をはかる指標として、国内外の大学で広く使われています。

【GPAの算出方法】

$$\text{GPA} = \frac{(S\text{の修得単位数} \times 4.0) + (A\text{の修得単位数} \times 3.0) + (B\text{の修得単位数} \times 2.0) + (C\text{の修得単位数} \times 1.0) + (D\text{の修得単位数} \times 0.0) + (E\text{の修得単位数} \times 0.0) + (*\text{の修得単位数} \times 0.0)}{\text{総履修登録単位数}}$$

※対象とする科目は、卒業要件の科目とし、卒業要件以外の資格科目・自由科目は対象となりません。

※対象とする評価は、「S, A, B, C, D, E, *」とし、認定の評価「T」は対象となりません。

※再履修で評価を受けた成績については、最新の成績が反映されます。

※GPAは計算結果の小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までを表示します。

GPAは、「成績表」に、直近と累積の値が記載され、海外留学の際の学力指標や、学内奨学金の採用基準となる他、成績優秀者の表彰や、学内の学習指導に利用されることがあります。

【履修取消について】

GPA制度の導入に伴い、「履修取消期間」を設定します。履修登録して、実際に授業を受けてみたものの、単位修得が困難と判断した科目についてのみ履修登録を取り消すことが可能です（この期間に履修科目の追加・変更はできません）。履修取消期間などの詳細については、ToyoNet-G に掲示しますので、各自で確認してください。

・成績に関する問合せ
(成績調査)

履修登録し、受講・受験したにもかかわらず成績表に評価が記載されていない場合や、記載されている評価に異議申し立てがある場合は、成績調査受付期間中に ToyoNet-G から評価について問い合わせをすることができます。成績調査受付期間については、ToyoNet-G に掲示しますので、各自で確認してください。成績調査申請の方法については『ToyoNet-G 利用ガイドブック』を参照してください。

成績の問い合わせができる期間は、当該セメスター内の成績調査受付期間中のみです。また、電話での問い合わせや手続きはできません。

・学修指導

学修指導として、専任教員が学生への指導及び保証人への連絡を行う場合があります。

卒業当該学期において、卒業単位が不足する学生を対象とし、卒業再試験を実施します。再試験の受験資格、対象科目については「総合情報学部卒業再試験実施に関わる内規」に基づき実施されます。卒業再試験の対象外の科目については、P.38 の総合情報学科開講科目一覧を確認してください。

総合情報学部卒業再試験実施に関わる内規

(目 的)

1. この内規は、不受験者および単位不足者の取り扱いに関する規程第2条に基づき、総合情報学部の単位不足者に対する卒業再試験に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(受験資格)

2. 4年次生で、卒業を希望するものであり、卒業に必要な単位数に6単位以内の不足であり、かつ、3科目以内であるものとする。

(対象科目)

3. 卒業再試験の対象となる科目は以下のすべての条件に該当する科目とする。
 - ① 原則として卒業当該学期に履修登録を行っている科目であること
 - ② 単位充足者発表時の評価で「D」の評価を得た科目であること

(対象除外科目)

4. 以下の科目は卒業再試験の対象科目から除外する。
 - ① 演習、実習、実験、実技、プラクティス関係科目
 - ② 卒業研究、卒業制作
 - ③ 産学連携科目
 - ④ 不正行為等により無効となった科目
 - ⑤ 通常の評価において「E」「*（評価不能）」と判定された科目
 - ⑥ 他学部と合同で開講し、当該学部で再試験を除外された科目
 - ⑦ 科目の性質上、担当教員と学部長が協議して卒業再試験にふさわしくないと判断した科目。ただし、その科目にあっては学生の履修登録以前に卒業再試験を実施しないことを学生に対して明示するものとする。

(再試験手続き)

5. 再試験は、卒業当該学期で発表される単位充足者発表時に、定められた期間内に面接を受けた上で所定の手続きを行うものとする。
 - ① 再試験手続きを行わなかった場合は、自動的に受験する権利は消滅する。
 - ② 受験しようとする者は、卒業再試験対象科目であり、かつ卒業再試験を行う科目の中から、卒業に不足する単位数分の科目数のみ受験することができる。
 - ③ 他学部開講科目を受験する場合は、当該学部の卒業再試験の規定に従うものとする。
 - ④ 代理人での手続きは認めない。

(再試験受験料)

6. 再試験受験料は以下の通りとする。
1科目 5,000円

(再試験の評価)

7. 卒業再試験の成績評価は以下の通りとする。
 - ① 成績評価基準は、それぞれの科目において定期試験で実施した基準と同等とする。
 - ② 再試験の結果、合格した者の成績評価の上限は「C」評価とする。

附 則

- ① この内規は、平成21年4月1日から施行する。
- ② この内規は、同学年に在学するものから適用する。
- ③ この内規は、教育体制の変更に伴い、その都度見直すものとする。

Ⅱ．学科教育課程表および履修方法について

1. 総合情報学科カリキュラムの特徴

総合情報学部総合情報学科は、知識情報化社会において、「第一級の情報の創り手・使い手」となる人材が現代社会を先導する人材であると捉え、情報コミュニケーション技術（ICT）を基礎とし、環境・心理・スポーツ・メディア・文化・芸術などの多方面で情報を的確に収集・編集・表現できる人材を育成します。このため、ICTを活用しながら情報の価値を高めていけることを「第一級の情報の創り手・使い手」の条件と捉えています。

現代社会に生きる私たちに求められるのは、高度な思考力と判断力に基づく適切な情報処理と、ICTの正しい活用によって、より安全で利便性の高い共生社会の創造にむけて豊かな感性をもって協業していくことです。

そして、この「共生社会の創造」を先導できるのが総合情報学科の卒業生なのです。総合情報学科では、こうした創造性の裏付けとなるICTの基礎技術を身につけるとともに、正確な情報の収集、得られた情報の適切な処理、編集した情報の効果的な伝達という、情報に関わる一連のプロセスを理解し実践できる第一級の能力の修得を目指します。

このため、総合情報学科では、これらの能力を修得するために、3コース制（システム情報コース、スポーツ情報コース、メディア文化コース）を導入し、2年生から学生はいずれかのコースに配属します。そして、各コースの高度な専門知識を学修することにより、専門分野におけるICTの高度な利活用の技術を修得していきます。

以下に、総合情報学科の学びの特徴を紹介します。

(1) 基盤教育「東洋大学スタンダード」

「諸学の基礎は哲学にあり」という建学の精神のもと、東洋大学は現在、地球規模の視点で物事をとらえ、自分の未来を切り開くことのできる「グローバル人財（人という財産）」の育成を目指しています。

「東洋大学スタンダード」は、教育目標である「哲学教育」「国際化」「キャリア教育」の3つの柱をつなぐ「教養教育」を強化し、学部の枠組みを超えて学ぶ基盤教育カリキュラムです。総合大学の特色を生かした幅広い教養教育として次のような枠組みを設けて展開しています。

<基盤教育による全学的人財養成の目標>

- 1) 哲学することを重んじ、自ら考え判断し行動する。
- 2) 知・徳・体の力を伸ばし、生命と自然を尊重する。
- 3) 学問を通じて、論理的思考力と生涯学習への礎を身につける。
- 4) 現代社会における諸課題を解決するための発想力・創造性を養う。
- 5) 自他の伝統と文化を相互に尊重するとともに、自らの個性を育む。
- 6) 21世紀のグローバル社会に貢献できる国際人・地球市民となる。
- 7) 総合的視野に立ち、他の分野の人々とも協働できるリーダーを目指す。

基盤教育「東洋大学スタンダード」を学び、幅広い知識・教養を身につけ、学科共通科目および専門科目を深く体系的に学ぶことができるよう、本学の学士課程教育が構成されています。

哲学・思想：建学の精神と思考鍛練の基礎

東洋大学の伝統と歴史、創立者の考えを学ぶとともに、東西の哲学を通じて、自ら考え、判断し、行動する能力を身につけることを目指す科目群。創立者・井上円了によれば、「哲学教育」とは、思想鍛練の方法として必要な学問であり、ものの見方や考え方の基礎を身につけることにあります。グローバル人財の育成にあたり必要な実践哲学、倫理観の醸成を重視し、総合的な視野に立って他分野の人々とも協働できるグローバルリーダーを育成します。

学問の基礎：普遍的な学問教育と論理的思考力の育成

人文・社会・自然科学の学問領域を追究する、いわゆる一般教養やリベラル・アーツといわれる科目群。学問上の方法論を修得し、論理的思考力の育成を目指すとともに、多様性を尊重し、地球環境の持続可能性を追求する人財を育成します。また、生涯にわたり学び続ける学習者としての態度を養います。

国際人の形成：グローバル化した地球社会で生きる

国際人を育成することに直接的に関わる、言語や情報等のコミュニケーション関連科目に加え、異文化理解や日本人としてのアイデンティティ、国際関係、地域文化などの理解を深める科目群。また、語学力・コミュニケーション能力を高めることで、他国の文化を受容・尊重し、自国の文化を世界に発信し、グローバル社会に貢献できる国際人・地球市民の養成を目指します。

キャリア・市民形成：キャリア教育と知・徳・体の成長を重視した人格教育

知・徳・体のバランスの取れた全人的人間性の養成を目指す科目群。めまぐるしく変化する現代社会においては、市民社会における個人の自由や権利を主張する一方で、地域のコミュニティを育て、連携して課題解決を目指し、協働することを学ぶ必要があります。社会的・職業的な課題における問題解決力や発想力の育成と、総合的な視野を持ち、他分野と協働できる能力の育成を目指し、自ら考え行動することを身につけ、自己実現を図ります。

総合・学際：先進的で総合的な教育内容・学習法の取り組み

さまざまな問題や課題を前面に出した複合的、総合的、学際的なテーマを設定する科目群。授業では最新の研究成果を広く他領域の学生に紹介し、複数の教員によるオムニバス形式、複数の教員が協働する同時登壇形式といった形式で行います。また、演習や討論、対話を通じて、学生が課題を探究・解決するアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れています。ICTを活用したキャンパス間をつないだ同時双方向遠隔授業なども行います。

留学支援科目

LEAP（学術英語習得プログラム）をはじめとする、学生の留学準備および英語強化を支援する準集中型英語プログラムが展開されています。この科目群により、学生のTOEFLのスコアおよび全体的な英語スキルを向上させるための支援、また同時に教室外の学習機会を提供します。

- (2) 1年生の導入段階では、情報を取り扱う基礎的な作法や知識（リテラシー）、社会における情報活用の幅広さを体感し学修する期間です。情報科学のコンセプトを理解し、コミュニケーション能力と幅広いICT利活用の基礎を身につけてください。また、各コースの導入となる科目も配置されているため、各コースの概要を把握し、次年度以降のコース配属につなげてください。
- (3) 2年生では、各コースに分かれ、コースの専門科目を中心に学び始める段階になります。この段階では、コースの基盤となる専門知識をしっかり学修することを心掛けてください。
- (4) 3年生では、コースの高度な専門知識を学修する段階になります。また、コース内のゼミ配属が実施され、専門分野の特定分野をより深く掘り下げ、学修する段階でもあります。
- (5) 4年生では、修得してきた能力を応用する段階になります。自らの関心と社会の求める課題にしたがって、卒業研究や卒業制作などのプロジェクトに取り組んでください。
- (6) 企業の方々に講師としてお招きして、教員と一体となって実施される講義や演習では、情報を利活用する社会経済活動の実態を学んでください。
- (7) 文章作成力向上講座、TOEICスコアアップ講座など、学士力と就業力を伸ばす課外講座を用意しています。積極的に取り組んでください。
- (8) 各教員は、企業等とも連携しつつ、総合情報学に関わる研究を進めています。その成果が教育内容にも反映されますから、最先端の学問に取り組んでください。
- (9) 4年間を通して、教員や学生同士で「教え学びあう」グループ学習の場を、授業、演習、ゼミナール、プロジェクトなどの課程内教育においてはもちろん、課外でも用意しています。総合情報学科での「教え学びあう」活動を、将来に向けて十分に活かしてください。

2. 卒業要件・卒着条件について

1. システム情報コース

1-1. 卒業要件

区分	基盤教育							学科共通科目				専門科目					教職関係科目	他学部他学科専門科目	合計
	哲学・思想	学問の基礎	国際人の形成	キャリア形成	総合・学際	留学支援科目	小計	基礎科目	科ビジネス関係目	科社会調査士関係目	小計	必修	システム情報ス	スポーツ情報ス	メディア文化ス	小計			
単位	2		必外国語6 選外国語4				28		8		16	24	28	8	8	68			124

1-2. 卒着条件1（卒業研究・制作Ⅰ履修条件）

4年次の必修科目卒業研究・制作Ⅰを履修するためには、次に定める単位数以上を修得していなければなりません。

区分	基盤教育							学科共通科目				専門科目					教職関係科目	他学部他学科専門科目	合計
	哲学・思想	学問の基礎	国際人の形成	キャリア形成	総合・学際	留学支援科目	小計	基礎科目	科ビジネス関係目	科社会調査士関係目	小計	必修	システム情報ス	スポーツ情報ス	メディア文化ス	小計			
単位												12	24			36			92

1-3. 卒着条件2（卒業研究・制作Ⅱ履修条件）

4年次の必修科目卒業研究・制作Ⅱを履修するためには、卒業研究・制作Ⅰを修得し、次に定める単位数以上を修得していなければなりません。

区分	基盤教育							学科共通科目				専門科目					教職関係科目	他学部他学科専門科目	合計
	哲学・思想	学問の基礎	国際人の形成	キャリア形成	総合・学際	留学支援科目	小計	基礎科目	科ビジネス関係目	科社会調査士関係目	小計	必修	システム情報ス	スポーツ情報ス	メディア文化ス	小計			
単位												18	26			44			108

2. スポーツ情報コース

2-1. 卒業要件

区分	基盤教育							学科共通科目				専門科目					教職関係科目	他学部他学科専門科目	合計
	哲学・思想	学問の基礎	国際人の形成	市民形成	キャリア	総合・学際	留学支援科目	小計	基礎科目	ビジネス関係科目	社会調査士関係科目	小計	必修	スポーツ情報	システム情報	メディア文化	小計		
単位	2		必修6 選択必修4					28		8		16	24	28	8	8	68		124

2-2. 卒着条件1（卒業研究・制作Ⅰ履修条件）

4年次の必修科目卒業研究・制作Ⅰを履修するためには、次に定める単位数以上を修得していなければなりません。

区分	基盤教育							学科共通科目				専門科目					教職関係科目	他学部他学科専門科目	合計
	哲学・思想	学問の基礎	国際人の形成	市民形成	キャリア	総合・学際	留学支援科目	小計	基礎科目	ビジネス関係科目	社会調査士関係科目	小計	必修	スポーツ情報	システム情報	メディア文化	小計		
単位													12	24			36		92

2-3. 卒着条件2（卒業研究・制作Ⅱ履修条件）

4年次の必修科目卒業研究・制作Ⅱを履修するためには、卒業研究・制作Ⅰを修得し、次に定める単位数以上を修得していなければなりません。

区分	基盤教育							学科共通科目				専門科目					教職関係科目	他学部他学科専門科目	合計
	哲学・思想	学問の基礎	国際人の形成	市民形成	キャリア	総合・学際	留学支援科目	小計	基礎科目	ビジネス関係科目	社会調査士関係科目	小計	必修	スポーツ情報	システム情報	メディア文化	小計		
単位													18	26			44		108

3. メディア文化コース

3-1. 卒業要件

区分	基盤教育							学科共通科目				専門科目					教職関係科目	他学部他学科専門科目	合計
	哲学・思想	学問の基礎	国際人の形成	キャリア形成	総合・学際	留学支援科目	小計	基礎科目	科ビジネス関係	科社会調査士関係	小計	必修	メディア文化	システム情報	スポーツ情報	小計			
単位	2		必修外国語6 選択外国語4				28		8		16	24	28	8	8	68			124

3-2. 卒着条件1（卒業研究・制作Ⅰ履修条件）

4年次の必修科目卒業研究・制作Ⅰを履修するためには、次に定める単位数以上を修得していなければなりません。

区分	基盤教育							学科共通科目				専門科目					教職関係科目	他学部他学科専門科目	合計
	哲学・思想	学問の基礎	国際人の形成	キャリア形成	総合・学際	留学支援科目	小計	基礎科目	科ビジネス関係	科社会調査士関係	小計	必修	メディア文化	システム情報	スポーツ情報	小計			
単位												12	24			36			92

3-3. 卒着条件2（卒業研究・制作Ⅱ履修条件）

4年次の必修科目卒業研究・制作Ⅱを履修するためには、卒業研究・制作Ⅰを修得し、次に定める単位数以上を修得していなければなりません。

区分	基盤教育							学科共通科目				専門科目					教職関係科目	他学部他学科専門科目	合計
	哲学・思想	学問の基礎	国際人の形成	キャリア形成	総合・学際	留学支援科目	小計	基礎科目	科ビジネス関係	科社会調査士関係	小計	必修	メディア文化	システム情報	スポーツ情報	小計			
単位												18	26			44			108

3. コース分けについて

・コース配属

第3セメスターから、3コースのうちの1コースに配属することになります。そして、「2. 卒業要件・卒着条件」の条件に基づき、コース毎に設定された各科目区分で必要な単位数の科目を履修していきます。

コース分けは、第2セメスター末に、3コースに対し第1希望から第3希望まで希望調査を実施します。教育の質を落とさないため、学年毎に各コースの所属人数に上限数（約120名）を設けます。第1希望のコースの希望人数が上限数を超えた場合、希望コースの専門科目の最低修得単位数（6単位）以上を最低条件とし、GPAの上位者から上限数まで選別します。この選別で上限数に満たない場合、さらに、最低修得単位数の条件を外し、GPAの上位者から上限数まで選別します。選別で落ちた学生は第2希望（GPAの上位者から選別）、第3希望への配属になります。ただし、自己推薦入試により入学した学生がシステム情報コースを第1希望にした場合と運動部優秀選手推薦入学試験により入学した学生がスポーツ情報コースを第1希望にした場合は、上記の条件とは無関係に優先的に配属されます。

・転コース

他のコースへの転属が1回のみ認められる場合があります。第4セメスターの時点で欠員が生じた場合など学生を追加配属可能な場合、各コースの判断により転コース試験を実施します。受験資格として、最低総修得単位数（62単位）以上および転入先コースの専門科目の最低修得単位数（10単位）以上の条件が課せられます。

※受験資格の最低単位数には受験時のセメスターの履修登録単位数を含みますが、転コース試験に合格しても、当該セメスターの終了時点で最低単位数の条件に満たない場合、合格を取り消します。

4. 履修について

4-1. 履修単位数

各学期に履修できる単位数の上限は24単位までです。ただし、卒業に必要な単位として認められない科目（すなわち教職課程の科目）については制限がありません。

また、すでにS・A・B・Cのいずれかの成績で合格して単位を修得した科目を、再び履修することはできません。

4-2. 履修上の注意

履修の際は、以下の点に注意してください。

①ローマ数字で履修順序を指定されている科目は、配当されている学年で番号順に履修しなければなりません。

ただし、修得できなかった場合、在学する学年より下の学年に配当されている科目は、番号順に関わらず履修・修得することができます。

②卒業研究・制作Ⅱを履修するためには、卒業研究・制作Ⅰを修得済みであることが必要です。

5. 教育課程表の見方・科目ナンバー

教育課程表の見方

総合情報学科教育課程表（2016年度入学生用）

区 分 (条件単位数)	必修/ 選択	科 目 ナンバ	科 目 名	単 位 数	配 当 学 年	履修モデル								備 考	
						1 学年		2 学年		3 学年		4 学年			
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
専門科目 卒業要件：68 単位以上， 卒着条件 1：36 単位以上， 卒着条件 2：44 単位以上															
必修	卒業要件：24 単位， 卒着条件 1：12 単位， 卒着条件 2：18 単位														
	必修	SEM102	基礎ゼミナールⅠ	1	1	○									
	必修	SEM103	基礎ゼミナールⅡ	1	1		○								
	必修	SEM101	総合情報学概論	2	1	○									
(1)		(2)		(3)		(4)		(5)						(6)	

(1)区分（条件単位数）

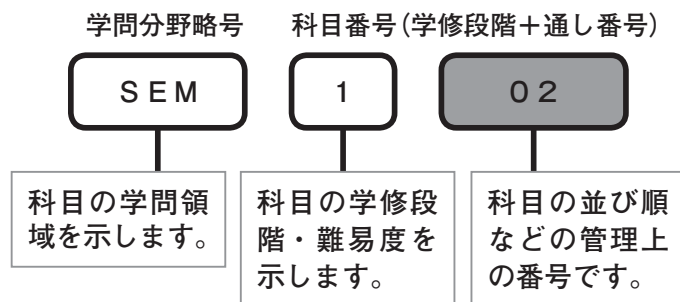
教育課程表（カリキュラム）は科目分野，学問分野ごとに区分が分けられており，大区分，中区分，小区分に区切られて記載されています。各区分の意味はカリキュラムの特徴（P.19）を確認してください。

卒業要件・卒着条件単位数が定められている場合，各区分の右側に単位数が記載されています。

(2)必修／選択

必修科目，選択必修科目，選択科目の別が記載されています。各科目の意味はP.9を確認してください。

(3)科目ナンバー



各授業科目には，学問分野略号を示す記号と科目番号が付与されています（総合情報学科教育課程表を参照）。学問分野略号と科目番号の意味はP.26を確認してください。

(4)単位数・配当学年

各授業科目に単位数，配当学年が記載されています。入学年度・学科によって単位数・配当学年が異なることがあるので必ず入学年度・自学科の課程表を確認してください。単位数・配当学年の意味はP.8～9を確認してください。

(5)履修モデル

各授業科目において，学科として履修するのに一番望ましいと考える学期，クラス分けが定められている場合，数字や記号が記載されています。開講学期は，事情により変更になることがあります。

○	学科として履修するのに一番望ましいと考える学期 ※ 全ての科目を望ましい学期で履修することはできません。
☆	学科として特に履修を推奨する科目
／	配当学年により履修できない学期
奇・偶	学籍番号の下1桁が，奇数が偶数かによってクラスが指定されている科目

(6)備考

科目の先修条件、履修上の注意が定められている場合、備考欄に記載があります。

学問分野略号・科目番号一覧

学問分野略号

各科目に付与されている科目ナンバーの学問分野略号は次の通りの分類になっています。

学問分野略号	学問分野名称	学問分野略号	学問分野名称	学問分野略号	学問分野名称
ACC	会計学	FAH	美術史	MUD	マルチメディア・データベース
ARL	芸術一般	FEN	流体工学	PHE	哲学・倫理学
AST	天文学	FMA	数学基礎・応用数学	PHY	物理学
BAB	基礎生物学	FRA	語学（フランス語）	PIP	知覚情報処理
BEB	生体医工学・生体材料学	FUL	基礎法学	POI	情報学基礎
BIE	人間医工学	GER	語学（ドイツ語）	POL	政治学
CGS	認知科学	HII	ヒューマンインターフェース・インタラクション	PSY	心理学
CHI	語学（中国語）	HPC	高性能計算	PUL	公法学
CIV	キャリア/インターンシップ/ボランティア系科目	HSG	史学一般	RES	宗教学
CLD	衣・住生活学	HSS	健康・スポーツ科学	SCO	ソフトコンピューティング
CLI	臨床心理学	IHR	国際人の形成（基盤教育）	SEM	ゼミナール／基礎演習
CME	商学	INI	知能情報学	SES	環境創成学
CMS	計算科学	INN	情報ネットワーク	SHS	科学社会学・科学技術史
COS	計算機システム	ISE	情報セキュリティ	SOC	社会学
CUA	文化人類学・民俗学	ITS	総合・学際（基盤教育）	SOF	ソフトウェア
DES	デザイン学	JPN	語学（日本語）	SOP	社会心理学
DEV	持続可能システム	KAI	感性情報学	SPS	スポーツ科学
DYC	機械力学・制御	KOR	語学（韓国語）	SSE	社会システム工学・安全システム
ECM	環境材料・リサイクル	LIH	図書館情報学・人文社会情報学	STS	統計科学
ECO	経済学	LIN	言語学	THE	卒業論文／卒業制作
EGI	エンタテインメント・ゲーム情報学	LIT	文学	THI	情報学基礎理論
ENG	語学（英語）	MAN	経営学	TYS	自校教育科目
EPS	環境政策・環境社会システム	MEE	計測工学	WIS	ウェブ情報学・サービス情報学

科目番号（学修段階＋通し番号）

100 番台	主に大学1年生を対象とした授業（1年次レベル）
200 番台	主に大学2年生を対象とした授業（2年次レベル）
300 番台	主に大学3年生を対象とした授業（3年次レベル）
400 番台	主に大学4年生を対象とした授業（4年次レベル）
500 番台	大学院レベル

※上記の科目番号は授業の難易度を示すものとして表記されています。教育課程表に記載されている配当学年（履修可能年次）と異なる場合があります。

6. 学科教育課程表

総合情報学科教育課程表（2016年度入学生用）

—基盤教育—

区 分 (条件単位数)	必修/ 選択	科 目 ナンバ	科 目 名	単 位 数	配 当 学 年	履修モデル								備 考
						1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
基盤教育 卒業要件：28 単位以上														
哲学・思想 卒業要件：2 単位以上														
	選択必修	PHE101	哲学	2	1-4									
	選択必修	PHE102	倫理学	2	1-4									
	選択必修	PHE103	論理学	2	1-4									
	選択必修	TYS101	井上円了と東洋大学	2	1-4									
	選択必修	RES101	宗教学	2	1-4									
学問の基礎														
	選択	AST101	天文学	2	1-4									
	選択	SES101	環境科学	2	1-4									
	選択	FAH101	美術史	2	1-4									
	選択	BAB101	生物学	2	1-4									
	選択	LIT101	文学	2	1-4									
	選択	HSG101	歴史学	2	1-4									
	選択	LIN105	言語学	2	1-4									
	選択	SHS101	科学史	2	1-4									
	選択	ECO101	経済学	2	1-4									
	選択	SOC101	社会学	2	1-4									
	選択	FUL101	法学	2	1-4									
	選択	POL101	政治学	2	1-4									
	選択	PSY101	心理学	2	1-4									
国際人の形成 卒業要件：必修 6 単位、選択必修 4 単位以上														
外国語必修 卒業要件：必修 6 単位														
英語														
	必修	ENG101	Integrated Practical English I	1	1	○								クラス分け科目
	必修	ENG102	Integrated Practical English II	1	1		○							クラス分け科目
	必修	ENG103	English for TOEIC I	1	1	○								クラス分け科目
	必修	ENG104	English Presentation I	1	1		○							クラス分け科目
	必修	ENG201	English for TOEIC II	1	2	/	/	○						クラス分け科目
	必修	ENG202	English Presentation II	1	2	/	/		○					クラス分け科目
日本語 【外国人留学生入試入学者のみ】														
	必修	JPN101	日本語 I A	1	1	○								外国人留学生入試で入学した学生は日本語 6 単位を必修とする。
	必修	JPN102	日本語 I B	1	1		○							
	必修	JPN103	日本語 II A	1	1	○								
	必修	JPN104	日本語 II B	1	1		○							
	必修	JPN205	日本語 III A	1	2	/	/	○						
	必修	JPN206	日本語 III B	1	2	/	/		○					
外国語選択必修 卒業要件：4 単位以上														
	選択必修	ENG203	Advanced TOEIC I	1	2	/	/		○					
	選択必修	ENG204	Remedial English I	1	2	/	/	○						
	選択必修	ENG205	Technical Reading	1	2	/	/	○						
	選択必修	ENG206	Technical Writing	1	2	/	/		○					
	選択必修	ENG301	Advanced TOEIC II	1	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	ENG302	Remedial English II	1	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	ENG303	Academic English	1	3	/	/	/	/	○	○			
	選択必修	ENG304	Business English	1	3	/	/	/	/	○	○			

総合情報学科教育課程表（2016年度入学生用）

—基盤教育—

区 分 (条件単位数)	必修/ 選択	科 目 ナンバ	科 目 名	単 位 数	配 当 学 年	履修モデル								備 考
						1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
国際人の形成（つづき）														
	選択	ENG105	英語と文化	2	1-4									
	選択	GER101	ドイツ語と文化	2	1-4									
	選択	FRA101	フランス語と文化	2	1-4									
	選択	CHI101	中国語と文化	2	1-4									
	選択	KOR101	韓国語と文化	2	1-4									
	選択	IHR101	国際キャリア概論	2	1-4									
	選択	IHR102	留学のすすめ	2	1-4									
	選択	IHR103	海外研修Ⅰ	2	1-4									
	選択	IHR104	海外研修Ⅱ	2	1-4									
	選択	IHR105	海外実習Ⅰ	2	1-4									
	選択	IHR106	海外実習Ⅱ	2	1-4									
	選択	IHR107	短期海外研修Ⅰ	1	1-4									
	選択	IHR108	短期海外研修Ⅱ	1	1-4									
	選択	IHR109	短期海外研修Ⅲ	1	1-4									
	選択	IHR110	短期海外研修Ⅳ	1	1-4									
	選択	IHR111	短期海外実習Ⅰ	1	1-4									
	選択	IHR112	短期海外実習Ⅱ	1	1-4									
	選択	IHR113	短期海外実習Ⅲ	1	1-4									
	選択	IHR114	短期海外実習Ⅳ	1	1-4									
キャリア・市民形成														
	選択	PUL101	日本国憲法	2	1-4									
	選択	CIV101	キャリア形成	2	1-4									
	選択	CIV102	社会人文章論	2	1-4									
	選択	HSS101	スポーツ健康科学実技Ⅰ	1	1-4									
	選択	HSS102	スポーツ健康科学実技Ⅱ	1	1-4									
	選択	HSS103	スポーツ健康科学講義(身体の健康)	2	1-4									
	選択	HSS104	スポーツ健康科学講義(心の健康)	2	1-4									
総合・学際														
	選択	ITS101	総合 A	2	1-4									
	選択	ITS102	総合 B	2	1-4									
	選択	ITS103	総合 C	2	1-4									
	選択	ITS104	全学総合Ⅰ A	2	1-4									
	選択	ITS105	全学総合Ⅰ B	2	1-4									
	選択	ITS106	全学総合Ⅱ A	2	1-4									
	選択	ITS107	全学総合Ⅱ B	2	1-4									
留学支援科目														
	選択	ENG105	English for Academic Purposes A Listening/Speaking	2	1-4									
	選択	ENG106	English for Academic Purposes B Reading/Writing	2	1-4									
	選択	ENG207	Pre-Study Abroad College Study Skills	1	1-4									
	選択	ENG208	Pre-Study Abroad Basic Academic Writing	1	1-4									
	選択	ENG209	Pre-Study Abroad Academic Essay Writing	1	1-4									
	選択	SUS101	Business English Communication	2	1-4									

総合情報学科教育課程表（2016年度入学生用）

—学科共通科目—

区 分 (条件単位数)	必修/ 選択	科 目 ナンバ	科 目 名	単 位 数	配 当 学 年	履修モデル								備 考
						1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
学科共通科目 卒業要件：16 単位以上														
基礎科目														
	選択	SEM121	総合情報プロジェクトA	1	1-3	○	○							
	選択	SEM122	総合情報プロジェクトB	1	1-3			○	○					
	選択	SEM123	総合情報プロジェクトC	1	1-3					○	○			
	選択	SEM411	専門英語講読Ⅰ	1	4	/	/	/	/	/	/	☆		
	選択	SEM412	専門英語講読Ⅱ	1	4	/	/	/	/	/	/		☆	
	選択	FMA101	基礎数学A	2	1	○								
	選択	FMA102	基礎数学B	2	1	○								
	選択	PHY101	基礎科学A	2	1	○								
	選択	BEB101	基礎科学B	2	1		○							
	選択	FMA103	情報数学	2	1	○	○							
ビジネス関係科目 卒業要件：8 単位以上														
	選択必修	MAN101	経営学の基礎	2	1		○							
	選択必修	CGS101	ロジカルシンキング	2	1	○								
	選択必修	CGS102	認知心理学	2	1	○								
	選択必修	ACC201	企業会計論	2	2	/	/	○						
	選択必修	INN201	ビジネスシステム論	2	2	/	/		○					
	選択必修	CME201	マーケティング論	2	2	/	/	○						
	選択必修	SOP201	社会心理学	2	2	/	/	○						
	選択必修	SOP301	組織心理学	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	CIV301	学外実習	2	3	/	/	/	/	○	○			
社会調査士関係科目														
	選択	SOC102	社会調査入門	2	1	○								
	選択	CLI101	アセスメント技法	2	1		○							
	選択	STS101	確率と統計	2	1	○								
	選択	STS102	統計学	2	1		○							
	選択	SOC201	社会調査法	2	2	/	/	○						
	選択	STS201	多変量解析	2	2	/	/		○					
	選択	SOC301	調査実習Ⅰ	2	3	/	/	/	/	○				
	選択	SOC302	調査実習Ⅱ	2	3	/	/	/	/		○			

総合情報学科教育課程表（2016年度入学生用）

ーシステム情報コースー

区 分 (条件単位数)	必修/ 選択	科 目 ナンバ	科 目 名	単 位 数	配 当 学 年	履修モデル								備 考
						1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
専門科目 卒業要件：68 単位以上， 卒着条件 1：36 単位以上， 卒着条件 2：44 単位以上														
必修 卒業要件：24 単位， 卒着条件 1：12 単位， 卒着条件 2：18 単位														
	必修	SEM102	基礎ゼミナールⅠ	1	1	○								
	必修	SEM103	基礎ゼミナールⅡ	1	1		○							
	必修	SEM101	総合情報学概論	2	1	○								
	必修	SEM111	総合情報学基礎演習Ⅰ	2	1	○								
	必修	SEM112	総合情報学基礎演習Ⅱ	2	1		○							
	必修	SEM211	総合情報学演習Ⅰ	2	2	／	／	○						
	必修	SEM212	総合情報学演習Ⅱ	2	2	／	／		○					
	必修	SEM311	総合情報学演習Ⅲ	2	3	／	／	／	／	○				
	必修	SEM312	総合情報学演習Ⅳ	2	3	／	／	／	／		○			
	必修	THE401	卒業研究・制作Ⅰ	4	4	／	／	／	／	／	／	○		卒着条件1を満たしていること
	必修	THE402	卒業研究・制作Ⅱ	4	4	／	／	／	／	／	／		○	卒着条件2を満たしていること，卒業研究・制作を修得済
システム情報コース 卒業要件：28 単位以上， 卒着条件 1：24 単位以上， 卒着条件 2：26 単位以上														
	選択必修	SOF101	入門プログラミング	2	1	○								
	選択必修	SOF102	プログラミング技法Ⅰ	2	1		○							
	選択必修	INN101	ネットワーク通信入門	2	1		○							
	選択必修	EPS101	環境学の基礎	2	1	○								
	選択必修	WIS101	サービス情報論	2	1		○							
	選択必修	SOF201	プログラミング技法Ⅱ	2	2	／	／	○						
	選択必修	SOF202	ソフトウェア工学Ⅰ	2	2	／	／	○						
	選択必修	SOF203	ソフトウェア工学Ⅱ	2	2	／	／		○					
	選択必修	COS201	コンピュータアーキテクチャ	2	2	／	／		○					
	選択必修	SOF204	オペレーティングシステム	2	2	／	／	○						
	選択必修	MUD201	データベース	2	2	／	／	○						
	選択必修	THI201	アルゴリズムの基礎	2	2	／	／		○					
	選択必修	DEV201	資源・エネルギーマネジメント論	2	2	／	／	○						
	選択必修	EPS201	CSR 論	2	2	／	／		○					
	選択必修	SSE201	社会インフラ論	2	2	／	／	○						
	選択必修	ECM201	グリーンプロダクト	2	2	／	／		○					
	選択必修	CME202	マーケティング実践論	2	2	／	／		○					
	選択必修	SOF301	プロジェクト管理	2	3	／	／	／	／		○			
	選択必修	INI301	人工知能Ⅰ	2	3	／	／	／	／	○				
	選択必修	SC0301	人工知能Ⅱ	2	3	／	／	／	／		○			
	選択必修	COS301	情報システム管理	2	3	／	／	／	／		○			
	選択必修	ISE301	情報セキュリティ	2	3	／	／	／	／		○			
	選択必修	HPC301	ネットワークコンピューティング	2	3	／	／	／	／	○				
	選択必修	MEE301	信号処理	2	3	／	／	／	／	○				
	選択必修	INN301	システム監査論	2	3	／	／	／	／	○				
	選択必修	CLD301	コミュニティデザイン論	2	3	／	／	／	／		○			
	選択必修	CME301	消費者選好分析	2	3	／	／	／	／	○				
スポーツ情報コース 卒業要件：8 単位以上														
	選択必修	SPS101	スポーツメカニクス入門	2	1		○							
	選択必修	HSS105	スポーツ行動心理学	2	1	○								
	選択必修	BEB102	心理・生体情報入門	2	1	○								
	選択必修	HSS106	スポーツ行動心理計測学入門	2	1		○							
	選択必修	CUA101	スポーツの思想と歴史	2	1		○							
	選択必修	FEN201	スポーツ流体科学入門	2	2	／	／	○						
	選択必修	SPS201	スポーツバイオメカニクス	2	2	／	／		○					
	選択必修	PIP201	身体動作計測	2	2	／	／		○					
	選択必修	PIP202	スポーツ情報処理入門	2	2	／	／	○						
	選択必修	BEB201	心理・生体情報論	2	2	／	／	○						
	選択必修	BEB202	心理・生体情報測定法	2	2	／	／		○					
	選択必修	HSS201	スポーツ行動心理計測論	2	2	／	／	○						
	選択必修	HSS202	スポーツ行動心理計測法	2	2	／	／		○					
	選択必修	CUA201	現代スポーツ文化論	2	2	／	／	○						
	選択必修	CUA202	グローバルスポーツと情報	2	2	／	／		○					

総合情報学科教育課程表（2016年度入学生用）

ーシステム情報コースー

区 分 (条件単位数)	必修/ 選択	科 目 ナンバ	科 目 名	単 位 数	配 当 学 年	履修モデル								備 考
						1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
スポーツ情報コース（つづき）														
	選択必修	DYC301	スポーツダイナミクス	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	DYC302	身体動作解析	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	KAI302	スポーツ感性商品デザイン	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	HSS301	スポーツパフォーマンス	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	HII301	ヒューマンインタフェース	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	SOP302	マネジメント心理学	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	PIP301	スポーツ情報処理論	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	BIE301	スポーツ人間工学	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	SOC303	スポーツ社会学	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	SOC304	スポーツとメディア	2	3	/	/	/	/		○			
メディア文化コース 卒業要件：8 単位以上														
	選択必修	EGI101	コンピュータグラフィックス論	2	1		○							
	選択必修	LIH101	メディア概論	2	1	○								
	選択必修	EGI102	メディア表現論	2	1		○							
	選択必修	EGI103	映像メディア作成技法	2	1		○							
	選択必修	LIH102	文化情報論	2	1		○							
	選択必修	CMS201	マルチメディアシミュレーション論	2	2	/	/		○					
	選択必修	EGI201	コンピュータグラフィックス技法	2	2	/	/	○						
	選択必修	EGI202	映像メディア論	2	2	/	/	○						
	選択必修	EGI203	コンテンツ作成技法	2	2	/	/		○					
	選択必修	WIS201	ネットワークメディア概論	2	2	/	/		○					
	選択必修	SHS201	メディアの歴史	2	2	/	/	○						
	選択必修	DES201	メディアデザイン論	2	2	/	/		○					
	選択必修	ARL201	芸術学	2	2	/	/		○					
	選択必修	SHS202	技術文化史	2	2	/	/	○						
	選択必修	EGI301	コンテンツ作成のためのCG	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	EGI302	コンテンツ作成のためのデータ処理	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	CMS301	マルチメディアシミュレーション技法	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	WIS301	ネットワークメディア技法	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	DES301	デジタルデザイン論	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	DES302	メディアデザイン技法	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	SOC305	メディアプランニング	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	CGS301	言語情報論	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	CGS302	サイエンスとアート	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	KAI301	感性学	2	3	/	/	/	/	○				
教職関係科目														
	選択	POI101	情報処理基礎	2	1-4									
	選択	POI102	情報化社会と倫理	2	1-4									
	選択	POI103	情報化社会と職業	2	1-4									

総合情報学科教育課程表（2016年度入学生用）

ースポーツ情報コースー

区 分 (条件単位数)	必修/ 選択	科 目 ナンバ	科 目 名	単 位 数	配 当 学 年	履修モデル								備 考
						1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
専門科目 卒業要件：68 単位以上， 卒着条件 1：36 単位以上， 卒着条件 2：44 単位以上														
必修 卒業要件：24 単位， 卒着条件 1：12 単位， 卒着条件 2：18 単位														
	必修	SEM102	基礎ゼミナールⅠ	1	1	○								
	必修	SEM103	基礎ゼミナールⅡ	1	1		○							
	必修	SEM101	総合情報学概論	2	1	○								
	必修	SEM111	総合情報学基礎演習Ⅰ	2	1	○								
	必修	SEM112	総合情報学基礎演習Ⅱ	2	1		○							
	必修	SEM211	総合情報学演習Ⅰ	2	2	／	／	○						
	必修	SEM212	総合情報学演習Ⅱ	2	2	／	／		○					
	必修	SEM311	総合情報学演習Ⅲ	2	3	／	／	／	／	○				
	必修	SEM312	総合情報学演習Ⅳ	2	3	／	／	／	／		○			
	必修	THE401	卒業研究・制作Ⅰ	4	4	／	／	／	／	／	／	○		卒着条件1を満たしていること
	必修	THE402	卒業研究・制作Ⅱ	4	4	／	／	／	／	／	／		○	卒着条件2を満たしていること，卒業研究・制作を修得済
スポーツ情報コース 卒業要件：28 単位以上， 卒着条件 1：24 単位以上， 卒着条件 2：26 単位以上														
	選択必修	SPS101	スポーツメカニクス入門	2	1		○							
	選択必修	HSS105	スポーツ行動心理学	2	1	○								
	選択必修	BEB102	心理・生体情報入門	2	1	○								
	選択必修	HSS106	スポーツ行動心理計測学入門	2	1		○							
	選択必修	CUA101	スポーツの思想と歴史	2	1		○							
	選択必修	FEN201	スポーツ流体科学入門	2	2	／	／	○						
	選択必修	SPS201	スポーツバイオメカニクス	2	2	／	／		○					
	選択必修	PIP201	身体動作計測	2	2	／	／		○					
	選択必修	PIP202	スポーツ情報処理入門	2	2	／	／	○						
	選択必修	BEB201	心理・生体情報論	2	2	／	／	○						
	選択必修	BEB202	心理・生体情報測定法	2	2	／	／		○					
	選択必修	HSS201	スポーツ行動心理計測論	2	2	／	／	○						
	選択必修	HSS202	スポーツ行動心理計測法	2	2	／	／		○					
	選択必修	CUA201	現代スポーツ文化論	2	2	／	／	○						
	選択必修	CUA202	グローバルスポーツと情報	2	2	／	／		○					
	選択必修	DYC301	スポーツダイナミクス	2	3	／	／	／	／	○				
	選択必修	DYC302	身体動作解析	2	3	／	／	／	／		○			
	選択必修	KAI302	スポーツ感性商品デザイン	2	3	／	／	／	／	○				
	選択必修	HSS301	スポーツパフォーマンス	2	3	／	／	／	／	○				
	選択必修	HII301	ヒューマンインタフェース	2	3	／	／	／	／		○			
	選択必修	SOP302	マネジメント心理学	2	3	／	／	／	／		○			
	選択必修	PIP301	スポーツ情報処理論	2	3	／	／	／	／	○				
	選択必修	BIE301	スポーツ人間工学	2	3	／	／	／	／	○				
	選択必修	SOC303	スポーツ社会学	2	3	／	／	／	／	○				
	選択必修	SOC304	スポーツとメディア	2	3	／	／	／	／		○			
システム情報コース 卒業要件：8 単位以上														
	選択必修	SOF101	入門プログラミング	2	1	○								
	選択必修	SOF102	プログラミング技法Ⅰ	2	1		○							
	選択必修	INN101	ネットワーク通信入門	2	1		○							
	選択必修	EPS101	環境学の基礎	2	1	○								
	選択必修	WIS101	サービス情報論	2	1		○							
	選択必修	SOF201	プログラミング技法Ⅱ	2	2	／	／	○						
	選択必修	SOF202	ソフトウェア工学Ⅰ	2	2	／	／	○						
	選択必修	SOF203	ソフトウェア工学Ⅱ	2	2	／	／		○					
	選択必修	COS201	コンピュータアーキテクチャ	2	2	／	／		○					
	選択必修	SOF204	オペレーティングシステム	2	2	／	／	○						
	選択必修	MUD201	データベース	2	2	／	／	○						
	選択必修	THI201	アルゴリズムの基礎	2	2	／	／		○					
	選択必修	DEV201	資源・エネルギーマネジメント論	2	2	／	／	○						
	選択必修	EPS201	CSR 論	2	2	／	／		○					
	選択必修	SSE201	社会インフラ論	2	2	／	／	○						
	選択必修	ECM201	グリーンプロダクト	2	2	／	／		○					
	選択必修	CME202	マーケティング実践論	2	2	／	／		○					

総合情報学科教育課程表（2016年度入学生用）

ースポーツ情報コースー

区 分 (条件単位数)	必修/ 選択	科 目 ナンバ	科 目 名	単 位 数	配 当 学 年	履修モデル								備 考
						1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
システム情報コース（つづき）														
	選択必修	SOF301	プロジェクト管理	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	INI301	人工知能Ⅰ	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	SC0301	人工知能Ⅱ	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	COS301	情報システム管理	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	ISE301	情報セキュリティ	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	HPC301	ネットワークコンピューティング	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	MEE301	信号処理	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	INN301	システム監査論	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	CLD301	コミュニティデザイン論	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	CME301	消費者選好分析	2	3	/	/	/	/	○				
メディア文化コース 卒業要件：8 単位以上														
	選択必修	EGI101	コンピュータグラフィックス論	2	1		○							
	選択必修	LIH101	メディア概論	2	1	○								
	選択必修	EGI102	メディア表現論	2	1		○							
	選択必修	EGI103	映像メディア作成技法	2	1		○							
	選択必修	LIH102	文化情報論	2	1		○							
	選択必修	CMS201	マルチメディアシミュレーション論	2	2	/	/		○					
	選択必修	EGI201	コンピュータグラフィックス技法	2	2	/	/	○						
	選択必修	EGI202	映像メディア論	2	2	/	/	○						
	選択必修	EGI203	コンテンツ作成技法	2	2	/	/		○					
	選択必修	WIS201	ネットワークメディア概論	2	2	/	/		○					
	選択必修	SHS201	メディアの歴史	2	2	/	/	○						
	選択必修	DES201	メディアデザイン論	2	2	/	/		○					
	選択必修	ARL201	芸術学	2	2	/	/		○					
	選択必修	SHS202	技術文化史	2	2	/	/	○						
	選択必修	EGI301	コンテンツ作成のための C G	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	EGI302	コンテンツ作成のためのデータ処理	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	CMS301	マルチメディアシミュレーション技法	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	WIS301	ネットワークメディア技法	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	DES301	デジタルデザイン論	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	DES302	メディアデザイン技法	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	SOC305	メディアプランニング	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	CGS301	言語情報論	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	CGS302	サイエンスとアート	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	KAI301	感性学	2	3	/	/	/	/	○				
教職関係科目														
	選択	POI101	情報処理基礎	2	1-4									
	選択	POI102	情報化社会と倫理	2	1-4									
	選択	POI103	情報化社会と職業	2	1-4									

総合情報学科教育課程表（2016年度入学生用）

ーメディア文化コースー

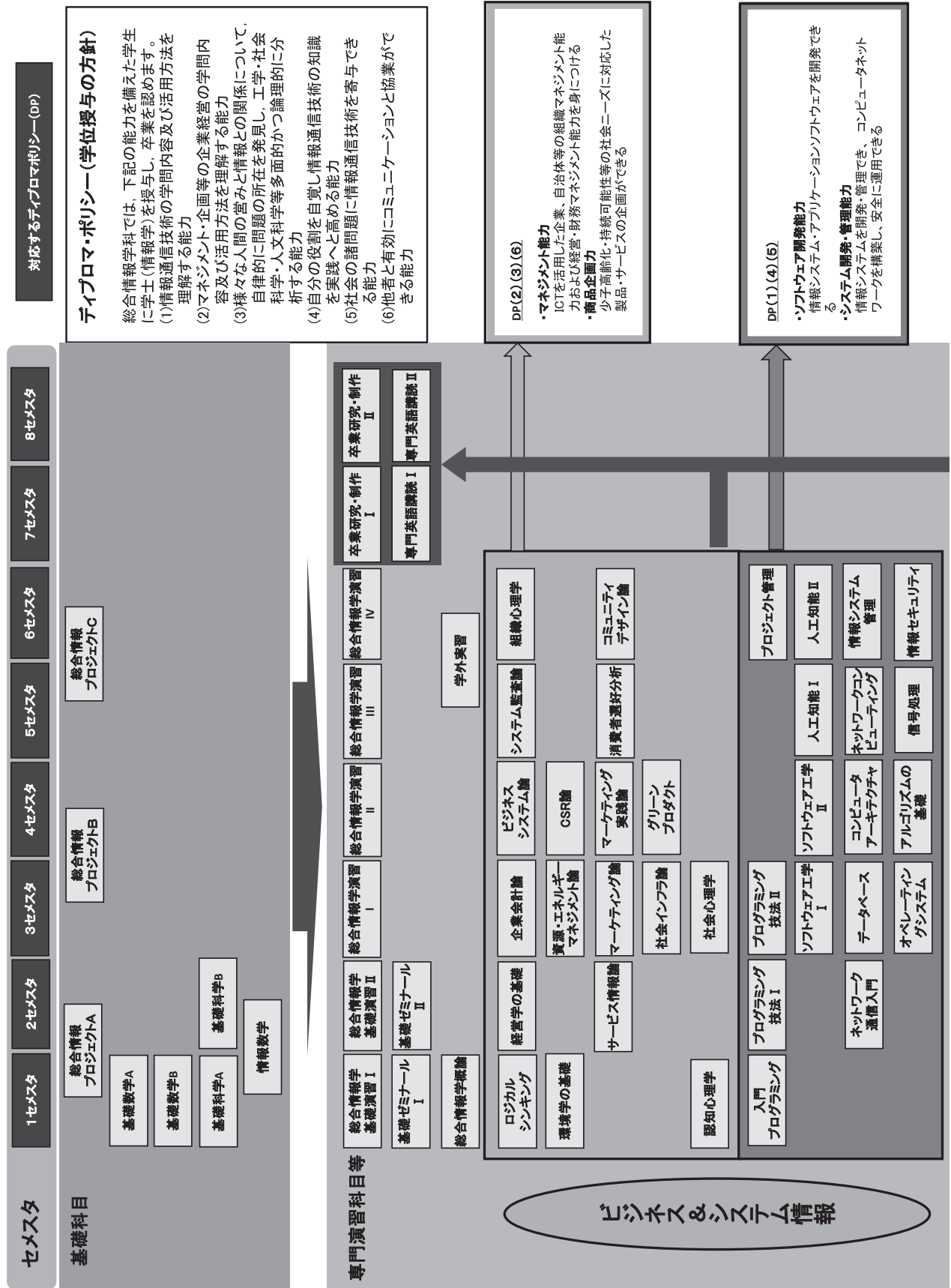
区 分 (条件単位数)	必修/ 選択	科 目 ナンバ	科 目 名	単 位 数	配 当 学 年	履修モデル								備 考
						1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
専門科目 卒業要件：68 単位以上， 卒着条件 1：36 単位以上， 卒着条件 2：44 単位以上														
必修 卒業要件：24 単位， 卒着条件 1：12 単位， 卒着条件 2：18 単位														
	必修	SEM102	基礎ゼミナールⅠ	1	1	○								
	必修	SEM103	基礎ゼミナールⅡ	1	1		○							
	必修	SEM101	総合情報学概論	2	1	○								
	必修	SEM111	総合情報学基礎演習Ⅰ	2	1	○								
	必修	SEM112	総合情報学基礎演習Ⅱ	2	1		○							
	必修	SEM211	総合情報学演習Ⅰ	2	2	／	／	○						
	必修	SEM212	総合情報学演習Ⅱ	2	2	／	／		○					
	必修	SEM311	総合情報学演習Ⅲ	2	3	／	／	／	／	○				
	必修	SEM312	総合情報学演習Ⅳ	2	3	／	／	／	／		○			
	必修	THE401	卒業研究・制作Ⅰ	4	4	／	／	／	／	／	／	○		卒着条件1を満たしていること
	必修	THE402	卒業研究・制作Ⅱ	4	4	／	／	／	／	／	／		○	卒着条件2を満たしていること，卒業研究・制作は修得済
メディア文化コース 卒業要件：28 単位以上， 卒着条件 1：24 単位以上， 卒着条件 2：26 単位以上														
	選択必修	EGI101	コンピュータグラフィックス論	2	1		○							
	選択必修	LIH101	メディア概論	2	1	○								
	選択必修	EGI102	メディア表現論	2	1		○							
	選択必修	EGI103	映像メディア作成技法	2	1		○							
	選択必修	LIH102	文化情報論	2	1		○							
	選択必修	CMS201	マルチメディアシミュレーション論	2	2	／	／		○					
	選択必修	EGI201	コンピュータグラフィックス技法	2	2	／	／	○						
	選択必修	EGI202	映像メディア論	2	2	／	／	○						
	選択必修	EGI203	コンテンツ作成技法	2	2	／	／		○					
	選択必修	WIS201	ネットワークメディア概論	2	2	／	／		○					
	選択必修	SHS201	メディアの歴史	2	2	／	／	○						
	選択必修	DES201	メディアデザイン論	2	2	／	／		○					
	選択必修	ARL201	芸術学	2	2	／	／		○					
	選択必修	SHS202	技術文化史	2	2	／	／	○						
	選択必修	EGI301	コンテンツ作成のためのCG	2	3	／	／	／	／	○				
	選択必修	EGI302	コンテンツ作成のためのデータ処理	2	3	／	／	／	／		○			
	選択必修	CMS301	マルチメディアシミュレーション技法	2	3	／	／	／	／	○				
	選択必修	WIS301	ネットワークメディア技法	2	3	／	／	／	／	○				
	選択必修	DES301	デジタルデザイン論	2	3	／	／	／	／		○			
	選択必修	DES302	メディアデザイン技法	2	3	／	／	／	／		○			
	選択必修	SOC305	メディアプランニング	2	3	／	／	／	／	○				
	選択必修	CGS301	言語情報論	2	3	／	／	／	／	○				
	選択必修	CGS302	サイエンスとアート	2	3	／	／	／	／		○			
	選択必修	KAI301	感性学	2	3	／	／	／	／	○				
システム情報コース 卒業要件：8 単位以上														
	選択必修	SOF101	入門プログラミング	2	1	○								
	選択必修	SOF102	プログラミング技法Ⅰ	2	1		○							
	選択必修	INN101	ネットワーク通信入門	2	1		○							
	選択必修	EPS101	環境学の基礎	2	1	○								
	選択必修	WIS101	サービス情報論	2	1		○							
	選択必修	SOF201	プログラミング技法Ⅱ	2	2	／	／	○						
	選択必修	SOF202	ソフトウェア工学Ⅰ	2	2	／	／	○						
	選択必修	SOF203	ソフトウェア工学Ⅱ	2	2	／	／		○					
	選択必修	COS201	コンピュータアーキテクチャ	2	2	／	／		○					
	選択必修	SOF204	オペレーティングシステム	2	2	／	／	○						
	選択必修	MUD201	データベース	2	2	／	／	○						
	選択必修	THI201	アルゴリズムの基礎	2	2	／	／		○					
	選択必修	DEV201	資源・エネルギーマネジメント論	2	2	／	／	○						
	選択必修	EPS201	CSR 論	2	2	／	／		○					
	選択必修	SSE201	社会インフラ論	2	2	／	／	○						
	選択必修	ECM201	グリーンプロダクト	2	2	／	／		○					
	選択必修	CME202	マーケティング実践論	2	2	／	／		○					

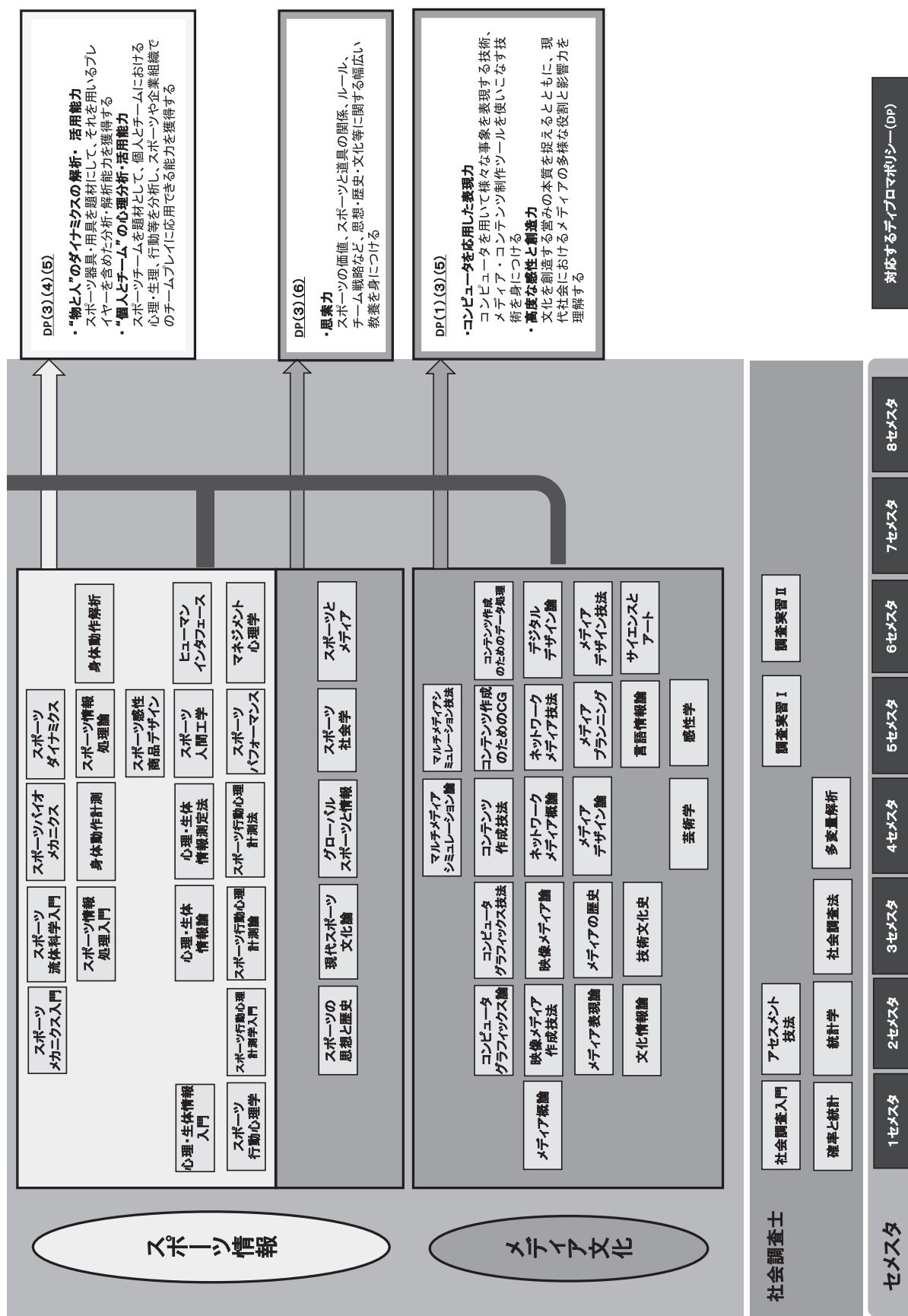
総合情報学科教育課程表（2016年度入学生用）

ーメディア文化コースー

区 分 (条件単位数)	必修/ 選択	科 目 ナンバ	科 目 名	単 位 数	配 当 学 年	履修モデル								備 考
						1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
システム情報コース（つづき）														
	選択必修	SOF301	プロジェクト管理	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	INI301	人工知能Ⅰ	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	SC0301	人工知能Ⅱ	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	COS301	情報システム管理	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	ISE301	情報セキュリティ	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	HPC301	ネットワークコンピューティング	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	MEE301	信号処理	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	INN301	システム監査論	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	CLD301	コミュニティデザイン論	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	CME301	消費者選好分析	2	3	/	/	/	/	○				
スポーツ情報コース 卒業要件：8単位以上														
	選択必修	SPS101	スポーツメカニクス入門	2	1		○							
	選択必修	HSS105	スポーツ行動心理学	2	1	○								
	選択必修	BEB102	心理・生体情報入門	2	1	○								
	選択必修	HSS106	スポーツ行動心理計測学入門	2	1		○							
	選択必修	CUA101	スポーツの思想と歴史	2	1		○							
	選択必修	FEN201	スポーツ流体科学入門	2	2	/	/	○						
	選択必修	SPS201	スポーツバイオメカニクス	2	2	/	/		○					
	選択必修	PIP201	身体動作計測	2	2	/	/		○					
	選択必修	PIP202	スポーツ情報処理入門	2	2	/	/	○						
	選択必修	BEB201	心理・生体情報論	2	2	/	/	○						
	選択必修	BEB202	心理・生体情報測定法	2	2	/	/		○					
	選択必修	HSS201	スポーツ行動心理計測論	2	2	/	/	○						
	選択必修	HSS202	スポーツ行動心理計測法	2	2	/	/		○					
	選択必修	CUA201	現代スポーツ文化論	2	2	/	/	○						
	選択必修	CUA202	グローバルスポーツと情報	2	2	/	/		○					
	選択必修	DYC301	スポーツダイナミクス	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	DYC302	身体動作解析	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	KAI302	スポーツ感性商品デザイン	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	HSS301	スポーツパフォーマンス	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	HII301	ヒューマンインタフェース	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	SOP302	マネジメント心理学	2	3	/	/	/	/		○			
	選択必修	PIP301	スポーツ情報処理論	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	BIE301	スポーツ人間工学	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	SOC303	スポーツ社会学	2	3	/	/	/	/	○				
	選択必修	SOC304	スポーツとメディア	2	3	/	/	/	/		○			
教職関係科目														
	選択	POI101	情報処理基礎	2	1-4									
	選択	POI102	情報化社会と倫理	2	1-4									
	選択	POI103	情報化社会と職業	2	1-4									

7. 総合情報学科カリキュラムマップ





8. 総合情報学科開講科目一覧

配当学年 区分				第 1 学年		第 2 学年		第 3 学年		第 4 学年	
				授業科目		授業科目		授業科目		授業科目	
基盤教育	哲学・思想			※ 哲学 ※ 宗教学		※ 倫理学		※ 論理学		※ 井上円了と東洋大学	
	学問の基礎			※ 天文学 ※ 文学 ※ 経済学 ※ 心理学		※ 環境科学 ※ 歴史学 ※ 社会学		※ 美術史 ※ 言語学 ※ 法学		※ 生物学 ※ 科学史 ※ 政治学	
	国際人の形成	外国語	英語	※ Integrated Practical English I ※ Integrated Practical English II ※ English for TOEIC I ※ English Presentation I		※ English for TOEIC II ※ English Presentation II					
			日本語	【外国人留学生入試入学者のみ】 ※ 日本語Ⅰ A ※ 日本語Ⅰ B ※ 日本語Ⅱ A ※ 日本語Ⅱ B		※ 日本語Ⅲ A ※ 日本語Ⅲ B					
		選択必修				※ Advanced TOEIC I ※ Remedial English I ※ Technical Reading ※ Technical Writing		※ Advanced TOEIC II ※ Remedial English II ※ Academic English ※ Business English			
		選択		※ 英語と文化 ※ 韓国語と文化		※ ドイツ語と文化		※ フランス語と文化		※ 中国語と文化	
				※ 国際キャリア概論 ※ 海外研修Ⅰ ※ 短期海外研修Ⅰ ※ 短期海外実習Ⅰ		※ 留学のすすめ ※ 海外研修Ⅱ ※ 短期海外研修Ⅱ ※ 短期海外実習Ⅱ		※ 海外実習Ⅰ ※ 短期海外研修Ⅲ ※ 短期海外実習Ⅲ		※ 海外実習Ⅱ ※ 短期海外研修Ⅳ ※ 短期海外実習Ⅳ	
	キャリア・市民形成			※ 日本国憲法 ※ スポーツ健康科学実技Ⅰ ※ スポーツ健康科学講義（身体の健康）		※ キャリア形成		※ 社会人文章論 ※ スポーツ健康科学実技Ⅱ ※ スポーツ健康科学講義（心の健康）			
	総合・学際			※ 総合 A ※ 全学総合Ⅰ A		※ 総合 B ※ 全学総合Ⅰ B		※ 総合 C ※ 全学総合Ⅱ A		※ 全学総合Ⅱ B	
	留学支援 科目	英語特別 教育科目		※ English for Academic Purposes A Listening/Speaking ※ Pre-Study Abroad College Study Skills ※ Pre-Study Abroad Academic Essay Writing				※ English for Academic Purposes B Reading/Writing ※ Pre-Study Abroad Basic Academic Writing ※ Business English Communication			
学科共通科目	基礎科目			※ 総合情報プロジェクトA		※ 総合情報プロジェクトB		※ 総合情報プロジェクトC		※ 専門英語講読Ⅰ ※ 専門英語講読Ⅱ	
				基礎数学 A 基礎数学 B 基礎科学 A 基礎科学 B 情報数学							
	ビジネス関係科目			経営学の基礎 ロジカルシンキング 認知心理学		企業会計論 ビジネスシステム論 マーケティング論 社会心理学		組織心理学 ※ 学外実習			
	社会調査士関係科目			社会調査入門 アセスメント技法 確率と統計 統計学		社会調査法 多変量解析		※ 調査実習Ⅰ ※ 調査実習Ⅱ			

配当学年		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
区分		授業科目	授業科目	授業科目	授業科目
専 門 科 目	必修	※ 基礎ゼミナールⅠ ※ 基礎ゼミナールⅡ ※ 総合情報学概論 ※ 総合情報学基礎演習Ⅰ ※ 総合情報学基礎演習Ⅱ	※ 総合情報学演習Ⅰ ※ 総合情報学演習Ⅱ	※ 総合情報学演習Ⅲ ※ 総合情報学演習Ⅳ	※ 卒業研究・制作Ⅰ ※ 卒業研究・制作Ⅱ
	システム情報コース	※ 入門プログラミング ※ プログラミング技法Ⅰ ネットワーク通信入門 環境学の基礎 サービス情報論	※ プログラミング技法Ⅱ ソフトウェア工学Ⅰ ソフトウェア工学Ⅱ コンピュータアーキテクチャ オペレーティングシステム データベース アルゴリズムの基礎 資源・エネルギーマネジメント論 CSR論 社会インフラ論 グリーンプロダクト マーケティング実践論	プロジェクト管理 人工知能Ⅰ 人工知能Ⅱ ※ 情報システム管理 情報セキュリティ ネットワークコンピューティング 信号処理 システム監査論 コミュニティデザイン論 消費者選好分析	
	スポーツ情報コース	スポーツメカニクス入門 スポーツ行動心理学 心理・生体情報入門 スポーツ行動心理計測学入門 スポーツの思想と歴史	スポーツ流体科学入門 スポーツバイオメカニクス ※ 身体動作計測 スポーツ情報処理入門 心理・生体情報論 心理・生体情報測定法 スポーツ行動心理計測論 スポーツ行動心理計測法 現代スポーツ文化論 グローバルスポーツと情報	スポーツダイナミクス 身体動作解析 スポーツ感性商品デザイン スポーツパフォーマンス ヒューマンインタフェース マネジメント心理学 ※ スポーツ情報処理論 スポーツ人間工学 スポーツ社会学 スポーツとメディア	
	メディア文化コース	コンピュータグラフィックス論 メディア概論 メディア表現論 映像メディア作成技法 文化情報論	マルチメディアシミュレーション論 コンピュータグラフィックス技法 映像メディア論 コンテンツ作成技法 ネットワークメディア概論 メディアの歴史 メディアデザイン論 芸術学 技術文化史	コンテンツ作成のためのCG コンテンツ作成のためのデータ処理 マルチメディアシミュレーション技法 ネットワークメディア技法 デジタルデザイン論 メディアデザイン技法 メディアブランニング 言語情報論 サイエンスとアート 感性学	
	教職関係科目	※ 情報処理基礎	※ 情報化社会と倫理 ※ 情報化社会と職業		

科目名の前に「※」が付されている科目は、卒業再試験対象外の科目です。

9. 大学院開講科目履修制度について

大学院開講科目履修制度について

総合情報学部では、大学院総合情報学研究科との連携を強め、大学院への進学を希望する学生に対して学部の中から専門的な学修の継続を図ることを目的として、総合情報学部3年次以降に大学院開講科目を履修できる「大学院開講科目履修制度」を導入しています。本制度の概要は以下のとおりですので、希望する学生は下記の事項をよく読んで必要な手続きをしてください。

1. 制度の概要

- (1) 本制度は、総合情報学部3年次以降に本学大学院総合情報学研究科の開講科目を履修できる制度です。
- (2) 本制度により修得した単位は、本学大学院総合情報学研究科修士課程に入学時に、所定の手続きを行うことにより、大学院の単位として10単位を上限に認定されます。
- (3) 本制度を利用できるのは下記の項目を満たす者とします。
 - ① 本制度を利用する当該セメスターに総合情報学部に進学していること。
 - ② 総合情報学部卒業後直ちに、大学院総合情報学研究科修士課程に進学する意志があること。
 - ③ セメスターごとの卒業要件単位数の履修・修得条件等については以下のとおり。
 - ・第5セメスターに履修する場合は、卒業要件単位数74単位以上修得していること。
 - ・第6セメスターに履修する場合は、卒業要件単位数84単位以上修得していること。
 - ・第7セメスターに履修する場合は、卒業条件1を満たし、かつ、卒業要件単位数94単位以上修得していること。
 - ・第8セメスターに履修する場合は、卒業条件2を満たし、かつ、卒業要件単位数110単位以上修得し、かつ卒業要件単位数を満たす履修登録をしていること。
 - ④ 卒業関係科目指導教員もしくは所属学科教員の所見があり、学科長の推薦があること。
 - ⑤ 受講科目担当教員の承諾を得ていること。
- (4) 本制度で履修できる大学院の科目は、当該セメスターに大学院総合情報学研究科修士課程で開講されている講義科目とし、対象講義科目については、別途4号館1階教学課前掲示板ならびにToyoNet-Gにて掲示します。ただし当該科目を履修する大学院生がいない場合、受講科目担当教員の履修許可を得ていても履修できません。
- (5) 本制度により履修する科目は、学部では自由科目として取り扱い、単位を修得した場合でも、学部卒業時の卒業要件単位数には含めません。また、1セメスターの履修登録単位数制限(24単位)の範囲内とします。
- (6) 本制度で履修することができる科目数は、在学中に10単位以内とします。
- (7) 本制度により修得した科目の評価は、学部の成績原簿、成績表、成績証明書に記載します。学生は総合情報学研究科入学時に、その記録を添えて単位認定の申請ができます。
- (8) 大学院入学年度の所属専攻の課程表に科目がない場合は、申請者の研究領域との関連を考慮して単位認定の可否を研究科委員会で判断します。

2. 申し込み手続きについて

「大学院開講科目履修制度」申し込み用紙に必要事項を記入の上、当該セメスターの履修登録期間内に教学課窓口にて提出してください。申し込み用紙は履修登録期間内に教学課窓口にて配布します。

Ⅲ．教職課程について

1. 教育職員免許状取得について（2016年度入学生用）

教職課程を学ぶにあたって

東洋大学教職課程運営委員長

本学の学祖井上円了は哲学館の創設にあたり「諸学の基礎は哲学にあり」の理念の下、「先入観や偏見にとらわれず、物事の本質に迫る仕方、論理的・体系的に深く考える人間」「社会の課題に自主的・主体的に取り組み、よき人間関係を築いていける人間」の育成をめざした。そして特に「教育家と宗教家」の養成に力を入れた。このように本学は創設以来、教員養成を重視し、この分野の伝統と実績を有する大学であり、多くの卒業生が教員として全国の学校で活躍している。

これから教職課程を履修し、教員免許状を取得して教員になろうと志す学生にはまずこのことをしっかりと自覚してほしい。

言うまでもなく、教員になるためには教員免許状の取得が必要である。免許状の取得に関する諸事項は教育職員免許法に定められており、本学もこれに基づいて教職課程教育を実施している。

教職課程に属する科目の多くは、各学科の卒業に必要な科目とは別に履修し単位を修得しなければならない。従って、教職課程を履修する学生は、他の学生よりも多くの科目を履修しなければならず、学修に費やす時間もそれだけ多くなる。1年次からの計画的な履修と学修が求められる。その詳細については、教職課程ガイダンスに参加して説明を聞くとともに、この「履修要覧」を熟読してほしい。

教員になるためには、担当する教科に関する知識を豊富に持つことが必要になることは言うまでもない。しかしそれだけでは教員として十分とは言えない。教員は成長・発達の途上にある児童・生徒を指導し、ともに学ぶ存在である。教員の言動は、時として、子どもの将来を大きく左右することもある。その意味で教員というのは恐ろしい職業である。しかし同時に教員は子どもの成長を直接目にし、それを助け、ともに喜び合えるやりがいのある職業でもある。

ある教育学者が次のようなことを問うている。「あなた（教員）は何の権利があって他人の子どもを教育するなどという大それたことができるのか」。

この問いに答えることは簡単ではない。しかし「他人の子ども」を教育するという「大それた事」を職業とすることを、子どもから、保護者から、そして社会から、許されるだけの準備を大学生活のなかでしておくことが、教員をめざす学生の最低限の義務である。

教員をめざす学生には、大学の授業で学ぶことはもちろん、サークル活動、ボランティア活動、趣味、アルバイトなど、さまざまな経験をしながら、自分自身を成長させることを期待したい。豊かな人間性を持った信頼に足る教員をめざしてほしい。

(1) 教育職員免許状取得条件について

次の表は平成10年7月1日施行の「教育職員免許法の一部を改正する法律」等に基づいて、教育職員免許状を取得するための基礎資格と免許法における最低単位数を示したものです。表にあるように基礎資格として「学士の学位を有すること」（卒業に必要な単位を修得すること）が要求されています。教育職員免許状取得のための単位は修得できたものの卒業できなかったということにならないよう、4年間の履修計画をしっかりと立てることが重要となります。大学はこの法律に基づいて、免許状取得に必要な科目を開講しています。本学で開講している科目は、「免許法施行規則第66条の6に定める科目」「教職に関する科目」「教科に関する科目」の頁で確認してください。

※教育職員免許状を取得するのに必要な科目は、4年間で履修かつ修得できるように配置されているため、4年間の履修計画を入念に立て、1年次より必要な科目を履修かつ修得することが重要です。2年次ないし3年次から取得を目指しても4年次終了（卒業）までに教育職員免許状を取得することは難しいため注意してください。

基礎資格と最低修得単位数（免許法第5条別表第1）

免許状の種類	基礎資格	免許法における最低修得単位数			
		免許法施行規則第66条の6に定める科目	教職に関する科目	教科に関する科目	教科又は教職に関する科目
高等学校教諭1種免許状	学士の学位を有すること	8	23	20	16

(2) 教育職員免許状教科について

総合情報学部で取得できる教育職員免許状は、高等学校1種免許状の「情報」です。

(3) 教職課程登録料について

本学では、通学課程の学部学生及び大学院生が教職課程の履修を希望する場合、教職課程登録料が必要となります。所定の期日までに指定された方法で納入してください。

なお、登録料の区分、徴収対象、徴収額および有効期間は以下の通りとなります。

	区分	徴収対象	徴収額	有効期間
教職課程登録料	在籍生登録料	東洋大学教職課程の履修を希望する通学課程の学部生及び大学院生	30,000円	・学部生は、納入時から卒業年度の3月31日（秋学期卒業生を含む。ただし、春学期卒業生は9月30日）まで。 ・大学院生は、納入時から修了年度の3月31日（秋学期修了生を含む。ただし、春学期修了生は9月30日）まで。
	卒業生等登録料	東洋大学の卒業生及び大学院修了生（ただし、退学者及び除籍者を含む。）で、教職支援室の利用等（教職に関するセミナー等への参加を含む。）を希望する者	5,000円 （ただし、秋学期からの場合は当該年度のみ2,500円とする。）	納入年度の3月31日まで。

※再入学した学生のうち、在籍時に教職課程登録料を納入している場合は、再度の納入は必要ありません。

(4) 2016年度入学生 教職課程履修方法

① 免許法施行規則第66条の6に定める科目

教育職員免許状希望者は、「日本国憲法」（2単位）、「スポーツ健康科学実技Ⅰ」（1単位）、「スポーツ健康科学実技Ⅱ」（1単位）、「情報処理基礎」（2単位）、「English PresentationⅠ」（1単位）、「English PresentationⅡ」（1単位）は必ず修得しておかなければなりません。

② 教職に関する科目（免許法施行規則第6条）

免許法施行規則に定める科目区分等		単位数	本学で開講する科目（高等学校）	履修単位	学年配当
科目	各科目に含める必要事項				
教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	中・高2	○教職概論	2	1
	教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）				
	進路選択に資する各種の機会の提供等				
教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	中・高6	○教育基礎論	2	1
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		○教育心理学	2	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		○教育制度論	2	1
教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	中12	○教育課程論	2	1
	各教科の指導法		○情報科指導法Ⅰ ○情報科指導法Ⅱ	2 2	3 3
	道徳の指導法		道徳教育論	2	2
	特別活動の指導法	高6	○特別活動の理論と方法	2	2
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		○教育方法論（情報機器及び教材の活用を含む）	2	2
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）				
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法 進路指導の理論及び方法	中・高4	○生徒指導論（進路指導論を含む）	2	2
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		○教育相談	2	2
教育実習		中5 高3	○教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）	3	4
教職実践演習		中・高2	○教職実践演習（中・高）	2	4
単位数合計		中31 高23		27 + a	

○印は必修科目

※中学校1種のみ必修となっている「道徳教育論」について、高等学校1種においては、余剰単位として「免許法における最低修得単位」に算入できる。上表右下段の「+ a」がこれを意味する。

③ 教科に関する科目（免許法施行規則第3条・第4条）

「教科に関する科目」については、免許法施行規則に指定された科目に基づいて、本学が開講している授業科目から所定の科目を選択履修し、免許法の規定による最低修得単位を修得しなければなりません。卒業に必要な科目と重複している場合は、改めて履修する必要はありません。

教科「情報」の場合（高等学校1種）

「情報」の免許状を取得しようとする者は、教職に関する科目必修27単位以上と、教科に関する科目32単位以上を修得しなければなりません。

●2016年度入学生

高等学校教諭 1 種 ～情報～

<必修>					<選択>			
科目名	1 年	2 年	3 年	4 年	1 年	2 年	3 年	4 年
情報社会及び情報倫理	情報化社会と倫理(2)							
コンピュータ及び情報処理 (実習を含む)	入門プログラミング(2) プログラミング技法I(2)	プログラミング技法Ⅱ(2)				アルゴリズムの基礎(2) コンピュータアーキテクチャ(2) オペレーティングシステム(2)		
情報システム (実習を含む)		データベース(2) ソフトウェア工学I(2)				ソフトウェア工学Ⅱ(2)	プロジェクト管理(2) 情報システム管理(2)	
情報通信ネットワーク (実習を含む)	ネットワーク通信入門(2)		ネットワークコンピュータティング(2)				情報セキュリティ(2)	
マルチメディア表現及び技術 (実習を含む)	メディア表現論(2)		コンテンツ作成のためのCG(2)				人工知能Ⅱ(2) 信号処理(2) コンテンツ作成のためのデータ処理(2) ヒューマンインタフェース(2)	
情報と職業	情報化社会と職業(2)							
全22単位修得					10単位以上修得			
32単位以上修得（「教職に関する科目」27単位修得の場合）								

2. 教育実習

(1) 「教育実習Ⅱ」について

教育実習は教職に関する科目の中の1科目であり、東洋大学が開講している科目です。したがって、東洋大学が責任を持ってその教育を行い、単位認定をするものです。

ところが、教育実習は科目の性格上、その主要な部分（学校現場における実習）を教育実習校に委託して指導をしていただくことになります。実際には教育実習校という特別な学校があるわけではなく、そこに勤務している先生にとっては職場であり、1年間の綿密な教育計画に基づいて、毎日生徒の教育活動が継続的に行われている普通の学校です。

そういう貴重な教育の場をお借りして実習をさせていただくのですから、生徒や学校に迷惑をかけないように万全の準備をして実習に臨まなければなりません。

高等学校教諭1種免許状を取得する場合は2～3週間の実習が必要となります。教育実習参加条件や手続、日程等は、下記(2)、(3)を参照すること（詳細についてはガイダンスで説明するので教職関係掲示板（4号館1階教学課前）ならびにToyoNet-ACEのお知らせを必ず確認してください）。

(2) 教育実習参加の条件

教育実習は基本的に4年次において履修しますが、3年次終了までに下記の条件を満たしていなければなりません。

①2016年度入学生

a. 卒業に必要な単位数を100単位以上修得していること。

b. 教職必修科目の

「教職概論」

「教育基礎論」

「教育心理学」

「教育制度論」

「教育課程論」

「情報科指導法Ⅰ」

「情報科指導法Ⅱ」

「特別活動の理論と方法」

「教育方法論」

「生徒指導論」

「教育相談」

をすべて修得済であること。

c. 教科に関する科目のうち

<情報>

「情報化社会と倫理」	「入門プログラミング」	「プログラミング技法Ⅰ」
「プログラミング技法Ⅱ」	「データベース」	「ソフトウェア工学Ⅰ」
「ネットワーク通信入門」	「ネットワークコンピューティング」	「メディア表現論」
「コンテンツ作成のためのCG」	「情報化社会と職業」	

をすべて修得済であること。

また、学業成績その他からみて教科に関する学力や性行上、教育職員として適格性を欠くと本学において判定された者についても実習参加を認めません。これらの判定のために、「教職パスポート」を活用し、教育実習の実施に先立って、学力検定、面接等を行う場合もあります。

教育実習は、各自が責任をもって実習校を開拓（母校など）することになります。実習校の内諾を得ることができなかった者、教育実習に関する所定の手続をしていない者、教育実習費を納入していない者も、教育実習への参加を認めません。また、妊娠中もしくは出産して1年以内の場合は、母体保護のため、教育実習の参加はできません。

（なお、疾病既往症等身体上の条件によって、教育実習への参加が認められない場合があります。更に教育職員としての就職も適切でないと判断される場合があるので、教職課程を履修するにあたって、十分にこの点を考慮してください。）

(3) 教育実習に関する手続および日程

教育実習に関する手続は、すべて本学の窓口を通して行ないます。教育実習に参加しようとする者は、教職関係掲示板（4号館1階教学課前）ならびにToyoNet-ACEに掲示される要領にしたがって、遺漏のないように手続をしなければなりません。詳細は「4. 教育職員免許状取得までの流れ（スケジュール）」（P.52）を確認してください。

大体の日程は下記の通りです。

① 教育実習の登録（3年次4月上旬）

教育実習を希望する者は、3年次4月の教職ガイダンスで配布する「教育実習登録票」「教育実習予定校届」を指定期間に必ず提出してください。登録しない者は教育実習を行うことはできません。

② 教育実習費の納入（4年次4月中旬）

所定の教育実習費を納入してください。

③ 教育実習者決定（4年次4月中旬）

教育実習参加の条件をすべて満たした者に対して教育実習が決定します。

なお、申請手続を怠ったり、ガイダンス等を無断欠席した者は実習への参加を一切認めません。

3. 免許状の申請および教員採用について

(1) 教育職員免許状一括申請について

本学では、4年次生で、卒業と同時に所定の基礎資格を取得し、かつ、所定の単位を修得した教職課程履修者に対し、授与権者（埼玉県教育委員会）と協力し、一括して事前審査を受け、「教育職員免許状」の授与を受ける制度を採用しています。

本来、各人が卒業後、その居住する都道府県の教育委員会に申請をして「教育職員免許状」の授与を受けるものですが、卒業と同時に教職につくことが予定される学生等のための便宜的な措置であるとともに、授与権者側としても、卒業時の大量の「教育職員免許状授与願」を能率的に処理しなければならない事務上の要請から、学校ごとに取りまとめ審査し、免許状を授与する制度です。

一括申請の場合に採用試験の出願書類等に記入する免許状授与日は3月31日となります。

（注） 教育職員免許状の授与証明書の発行は授与権者（教育委員会）にて行うので一括申請にて免許状を取得した場合、埼玉県教育委員会へ申請し証明書の発行を受けてください。

(2) 教員採用試験について

教育職員免許状を取得（見込）した者が教員になるためには、まずは教員採用試験に合格する必要があります。出願期間・受験条件・試験日程・試験方法は教育委員会・学校によって異なりますので、各自で実施要綱等を確認し、教員採用試験を受験してください。

※高等学校1種免許状「情報」のみの取得（見込）では、教員採用試験の受験資格として認められない教員委員会（例：東京都・埼玉県）があります。教員採用試験を受験するには、受験可能な教育委員会・学校を探るか、総合情報学科卒業後に、「情報」以外の教科（科目）の高等学校1種免許状を取得する必要があります。

※教員採用試験等で、受験する教科（科目）の中学校教諭・高等学校教諭両方の教育職員免許状の取得（見込）していることが、採用試験受験の条件としている場合（例：東京都）があるため、できる限り中学校教諭・高等学校教諭両方の教育職員免許状の取得を目指してください。

① 公立学校の教員採用

公立学校の教員になるためには、各都道府県または市の教育委員会が実施する教員採用試験に合格し、採用候補者の名簿に登録される必要があります。名簿の中からその年度の欠員状況、教員組織の状況などを考慮して選定され、採用が決定されることが通例です。名簿に登録されている期間は1年間であり、それ以降は無効となるため、合格者であっても全員が教員になれない場合もあります。

② 私立学校の教員採用

各私立学校独自の公募制による採用と、各都県の私学協会等が実施する「私立学校教員適性検査」を基に採用を行う場合があります。

「私立学校教員適性検査」は採用試験ではなく、適性検査を受けた受検者の氏名と評価等が記載された名簿を基にして、教員の採用を行うものです。すべての都道府県で実施しているものではないことと、検査を実施する都県にある私立学校全てが「私立学校教員適性検査」の結果を基に教員募集を行っているとは限らないため、採用を希望する学校の採用方法を各自で確認する必要があります。

(3) 介護等体験について

小・中学校の教員志望者に介護等の体験を義務付ける法律が平成9年6月に成立し、平成10年4月1日以降の大学等入学者から、小・中学校の教員の免許状取得希望者は、社会福祉施設、特別支援学校などで、7日以上、高齢者や障害者に対する、介護、介助、交流等の体験を行うことが必要となりました。

この体験を行うには、大学を通して申し込みをしなければなりません。総合情報学科卒業後、小・中学校の教育職員免許状の取得を考えている方は、総合情報学科在学中に川越キャンパスで実施している介護等体験に参加する必要があります。2年次からガイダンスや手続き等が実施されます。詳細については、教職関係掲示板（4号館1階教学課前）もしくは教学課にて確認してください。

(4) 教職に関する就職支援について

教職支援室（1号館1階）において、以下のような支援を行います。

- ・教員採用試験対策講座
- ・模擬試験関連情報提供・模擬面接
- ・専門スタッフによる教育職員希望者への就職指導
- ・教職関連資料（参考書、雑誌、教科書、学習指導案など）の閲覧

教員採用試験対策講座のスケジュールについては、ToyoNet-ACEや教職関係掲示板にてお知らせします。

(5) 教員免許状更新制について

教員免許状は10年間の有効期限が設けられており、10年ごとに30時間の免許状更新講習（筆記試験、実技試験等を含む）を受け、修了認定されることによって有効期間が更新されます。免許状を持っているが教育の職に就いていない者（いわゆるペーパー・ティーチャー）は免許状更新講習を受講することはできません。したがって、教職に就かないまま10年を過ぎると免許状が無効になります。ただし、ペーパー・ティーチャーであった者が教職に就く見通しが立った場合には、講習を受けて修了を認定された後、免許状の再交付を受けることができます。

教職課程の履修に際しては、教育職員免許状の制度が大きく変わったことをよく理解して、自分自身の教職に対する意志を再確認してください。

4. 教育職員免許状取得までの流れ（スケジュール）

このスケジュールはあくまでも予定のため、時期が多少前後することがあります。必ず教職関係掲示板を確認してください。また、このスケジュールはモデルケースですが、実習時期や教育職員免許状取得時期が遅れる場合は、事前に教学課に相談してください。

特記事項	免許種別	手続内容
参加必須…該当者は必ず参加 締切厳守…提出物を必ず期限内に提出	高…高等学校教諭1種希望者	実…教育実習（高等学校） 演…教職実践演習 申…一括申請

学年	月	内 容	特記事項	免許種別	手続内容
1 年	11 月上旬	「教職パスポート」説明会の掲示		高	演
	12 月上旬	「教職パスポート」説明会 (教職パスポート配付, 教職課程料)	参加必須	高	演
	1 月～3 月	教職課程登録料の納入	締切厳守	高	
2 年	12 月下旬	「教職パスポート」中間点検説明会の掲示		高	演
	1 月上旬	「教職パスポート」中間点検説明会 (中間点検記入の注意事項)	参加必須	高	演
	1 月下旬	「教職パスポート」回収【中間点検記入後】	締切厳守	高	演
		次年度教育実習事務手続ガイダンスの掲示		高	実
3 年	4 月上旬	教育実習事務手続ガイダンス 次年度教育実習予定校確保（内諾）について	参加必須	高	実
		教育実習登録票の提出	締切厳守	高	実
	4 月以降	教育実習校への内諾依頼 (各自出身校等へ次年度実習の依頼に行くこと)		高	実
		教育実習受入内諾書の確認（東京都公立学校以外）		高	実
	9 月中旬	教育実習希望調書の提出（東京都公立学校）	締切厳守	高	実
	12 月	教育実習校の発表（東京都公立学校） 東京都公立学校での実習希望者は掲示にて確認		高	実
	1 月下旬	次年度教育実習直前ガイダンスの掲示		高	実
4 年	4 月上旬	教育実習直前ガイダンス (実習直前の心構え, 実習上の注意事項, 実習校 持参書類の配付, 教育実習承諾書確認)	参加必須	高	実
	4 月中旬	教育実習料の納入	締切厳守	高	実
	5 月以降	教育実習<注1>	参加必須	高	実
	実習終了後1ヵ月以内	教育実習日誌の提出	締切厳守	高	実
	9 月下旬	教育職員免許状一括申請説明会の掲示		高	申
	10 月上旬	教育職員免許状一括申請説明会	参加必須	高	申
		申請免許状の申込<注2> 【免許状記載内容の最終確認, 埼玉県教育委員会に 提出する書類の署名・捺印, 申請料の納入】	締切厳守	高	申
	3 月上旬	単位充足者発表 成績表確認		高	
	卒業式当日	教育職員免許状授与（交付）	印鑑を持参 すること	高	

※ガイダンスを無断で欠席したり、手続きを怠ったりすると、教育実習に参加できなくなりますので、教職関係掲示板・履修要覧の日程をよく確認してください。

また、教育実習の内諾後のキャンセルや、一度納入した実習費の返金は一切できませんのでご注意ください。

<注1>教育実習の実習時期は各実習校によって異なるので、各自が承諾書等で必ず確認してください。

<注2>9月卒業者・科目等履修生は一括申請対象外のため、個人で教育職員免許状を申請してください。

個人で申請する際、申請先は住民票をおいている都道府県の教育委員会となります。

IV. Toyo Global Leader (TGL) プログラムについて

海外留学・国際交流プログラム

Toyo Global Leaderプログラム（TGLプログラム）

TGLプログラムは、東洋大学生が国内外で活躍できるグローバル人材となるために、「異文化環境における英語運用表現能力」、「文化的な価値創造能力」、「異文化環境における課題解決能力」の3要素を強化することを目的としています。これらの目的に沿って、「Gold」「Silver」「Bronze」のランクごとに認定要件を定め、各要件を満たした学生をToyo Global Leaderとして認定します。

認定要件

下記のとおり、ランクごとに認定要件が設定されています。

認定要件	TGL Gold	TGL Silver	TGL Bronze
(1) 英語能力（TOEIC®等）	730点	590点	なし
(2) 外国語による授業科目の修得	40単位	20単位	10単位
(3) 英語での卒業論文等執筆	必須	推奨	推奨
(4) 海外留学・インターンシップ	必須	どちらかを 必須	推奨
(5) 海外アクティビティ	必須		推奨
(6) 東洋グローバルリーダーキャンプ	必須（運営）	必須（参加）	必須（参加）
(7) Toyo Global（TG）ポイント	30ポイント	20ポイント	10ポイント

認定要件について

(1) 英語能力

英語資格試験のスコアにより認定します。TOEIC®（公開テストおよびIPテスト）のほか、TOEFL iBT®, TOEFL ITP®, IELTS™のスコアをTOEIC®スコアに換算します。なお、スコアは在学中に受験したものに限りします。

(2) 外国語による授業科目の修得

開講言語が外国語の授業科目および基盤教育の語学科目の修得単位数を加算していきます。また、海外留学や海外インターンシップ等により認定された科目の単位数も加算できます。

(3) 英語での卒業論文等執筆

執筆言語を問わず卒業論文等（指導教員が認めるもの）を執筆した場合、所定のフォーマットで英文要旨を提出することで認定します。

(4) 海外留学・インターンシップ

海外での活動が連続で3週間以上の留学やインターンシップを対象とします。大学で開催しているプログラムのほか、学外機関が主催するプログラムも活動内容等により対象となります。なお、単位認定の有無は問いません。

(5) 海外アクティビティ

上記(4)に該当しない、海外での活動が連続で1週間以上の留学、研修、インターンシップ、ボランティア等の活動を対象とします。大学で開催しているプログラムのほか、学外機関が主催するプログラムも活動内容等により対象となります。なお、単位認定の有無は問いません。

(6) 東洋グローバルリーダーキャンプ

本学で実施するグローバルリーダーキャンプへの参加（または運営チームとしての参加）により認められます。

(7) Toyo Global（TG）ポイント

国内外の国際交流活動（海外留学、インターンシップ、ボランティア、国際シンポジウム等）および課外語学講座等への参加がポイントの対象となります。ポイントは各活動期間に応じて付与します。

※詳細はToyoNet-ACEで確認してください。

ログイン⇒「TOYO GLOBAL DIAMONDS（国際交流情報）」コース⇒「東洋グローバルリーダープログラム」

TGLプログラムの仕組み

一度の取り組みで複数の認定要件に当てはまる場合があります。

<例>

東洋グローバルリーダーキャンプに参加した。

認定要件	結 果
(6) 東洋グローバルリーダーキャンプ	⇒ 認定（参加）
(7) Toyo Global（TG）ポイント	⇒ 2ポイント付加

<例>

交換留学で1年間海外渡航（TOEFL550点を保有）。

留学先で英語による専門科目5科目を修得，東洋大学で5科目×2単位=10単位が認定された。

また，留学中1週間のボランティア活動に従事し，「短期海外実習Ⅰ」（1単位）が認定された。

認定要件	結 果
(1) 英語能力	⇒ 認定（TOEIC730点に換算）
(2) 外国語による授業科目の修得	⇒ 11単位加算
(4) 海外留学・インターンシップ	⇒ 要件クリア
(5) 海外アクティビティ	⇒ 要件クリア
(7) Toyo Global（TG）ポイント	⇒ 35ポイント付加

【TGLプログラムについての問合せ先】

国際部 国際連携本部事務課（白山キャンパス 甫水会館1階）

Tel : 03-3945-8549

E-mail : ml-tgl@toyo.jp

V. 海外留学・海外研修プログラムについて

東洋大学国際教育センター主催 海外留学プログラムについて

(1) 海外留学プログラムの概要

本学には、休学することなく留学できるプログラムとして、「交換留学」「認定留学」「協定校語学留学」「短期語学セミナー」があります。

プログラムの概要は以下のとおりです。

プログラム名	①交換留学	②認定留学	③協定校語学留学	④短期語学セミナー
留 学 形 態	学部留学※1		語学留学※2	
期 間	1 年※3	1 学期または 1 年	3 または 6 ヶ月	1 ～ 2 ヶ月
出 発 時 期	第Ⅰ期：2～3月 第Ⅱ期：8～9月	留学先大学により 異なる	春学期：2～3月 秋学期：8～9月	夏季および 春季休暇中
語 学 条 件	あり		なし	
単 位 認 定	申請可能			
東洋大学留学奨学金 (給付型)	あり			なし
東洋大学海外留学 促進奨学金 (給付型)	グローバルリーダー型	アクティブ型		ファーストステップ型

※1 学部留学…現地で正規課程の授業を履修する留学。

※2 語学留学…海外の大学附属の語学学校で語学を集中的に学ぶ留学。

※3 1年………留学先機関によって学期制度や学期の日程が異なるため、トータルで1年間の留学期間を指す。

- 本学の学費とは別に、留学プログラムの参加費がかかります。
- 休学中に留学プログラムに参加することはできません。
- 上記の全ての留学プログラムは単位認定の申請が可能です。単位認定の申請手続きについては、ホームページを参照してください。また、必ず留学前および留学後に教学課窓口で卒業までの履修計画について相談をしてください。
- 留学に係る費用や協定校の詳細情報、申請可能な奨学金の種類、留学前の手続きなど、具体的な説明や予め知っておくべき留学生生活の基礎知識などについて、1冊にまとめた「留学の手引き」を国際教育センターで毎年4月に刊行しています。
- 留学プログラム内容、奨学金などは、年度により変更することがあります。必ず「留学の手引き」を参照するとともに、国際教育センター窓口、ホームページ等で留学する最新の情報を確認してください。

東洋大学独自の奨学金

東洋大学では、海外での留学、ボランティア、インターンシップの支援を目的とし、東洋大学独自の留学のための奨学金を設けています。

1. 東洋大学留学奨学金（給付型・申請不要）

留学が決定した交換留学生・認定留学生、全員に給付されます。給付額は、交換留学奨学金が本学の年間授業料相当額（留学期間が1学期の場合は半額）、認定留学奨学金は本学の授業料半額相当です（留学期間が1学期の場合は1/4）。協定校語学留学奨学金は、出願時に所定の語学条件を満たした場合、本学の授業料1/4相当額が給付されます。授業料減免を受けている場合は、減免後の授業料相当額が支給されます。いずれの奨学金も申請不要です。

2. 東洋大学海外留学促進奨学金（給付型・要申請）

奨学金申請時の語学力に応じ、海外の留学、ボランティア、インターンシップ等に参加する学生を対象に給付される奨学金です。留学の種類によりグローバルリーダー型、アクティブ型、チャレンジ型、ファーストステップ型の4つのタイプから選べます。「グローバルリーダー型」を除き1. 東洋大学留学奨学金と併給可能です。また、海外留学促進奨学金は上記の他にも対象プログラムがあります。支給金額および出願方法は奨学金の種類や語学スコアによって異なりますので、詳細は国際教育センターのホームページや募集要項等で確認してください。

(2) 総合情報学部での留学の取り扱いについて

総合情報学部では、国際的視野を持ち専門分野で活躍できる優秀な学生を育成するため、長期留学プログラム（交換留学、認定留学、協定校語学留学）の参加を推進しています。留学参加期間中には本学での履修登録はできませんので、各プログラムへの参加を希望する学生は、事前に学科教員および教学課窓口で卒業までの履修計画について相談をしてください。

単位認定について（交換留学、認定留学、協定校語学留学）

本学主催の長期留学プログラム（交換留学、認定留学、協定校語学留学）に参加した学生が留学先大学・大学院で取得した単位について、本学開講科目の単位としての認定を申請することができます。単位の認定は、留学先における履修科目の内容および時間数が本学開講の対応科目と合致することが条件です。必ず留学前に学科教員および教学課窓口で卒業までの履修計画について相談をしてください。単位認定は、教授会の審議を経て決定します。

- [1] 留学先大学の授与した単位数にかかわらず、留学先大学で履修した科目の実質の授業時間数を考慮して単位認定を行います。
- [2] 単位認定の際には、留学先大学での授業時間数や授業内容がわかる資料が必要です。そのため、留学先大学で履修した科目のシラバス、使用したテキスト・ノート等の提出が必要です。
- [3] 単位認定の作業には時間がかかるため、留学から帰国後直ちに教学課窓口へ単位認定について相談をしてください。

単位認定について（短期語学セミナー）

「短期語学セミナー」（英語・中国語圏）に参加し、条件を満たすことにより、「英語と文化」「中国語と文化」の単位認定を申請することができます。単位認定により付与される成績評価は、認定の評価「T（Transfer の略）」となります。

単位認定を希望する学生は、国際教育センターから送付される「単位認定願」を、単位認定を希望する学期の正規履修登録期間に教学課窓口へ提出してください。単位認定の申請は、短期語学セミナー終了後4セメスタ以内は有効です。

(3) 各種留学プログラムの詳細

①交換留学

本学が学生交換協定を締結している協定校あるいは海外学生交換コンソーシアムに加盟する大学等へ、1学期（※1）または1学年間留学するプログラムです。原則、留学先大学の授業料は免除となり、正規課程の授業を履修します。東洋大学では、82大学（2015年11月現在）と学術交換協定を締結し、またISEP（アイセップ）※2、UMAP（ユーマップ）※3の2つのコンソーシアムに加盟しています。1学期または1年間の長期留学で自分の可能性を広げたい、海外の大学でじっくり勉強し、専門分野の知識を深めたい学生にお勧めします。

※1 アメリカ・ISEP 留学のみ

※2 ISEP（International Student Exchange Programs）とは、世界中の ISEP 加盟校間で大学生の交換留学を推進する、非営利のコンソーシアムです。

※3 UMAP（University Mobility In Asia and the Pacific）とは、アジア太平洋地域における高等教育機関の学生・教職員の交流促進を目的として設立された団体で、同地域の単位互換による学生交流を進めています。

応募資格

出願時において、以下の3点を満たしていること。

- [1] 本学の学部、大学院生であり、GPA2.00 以上（通算）であること。
※学部4年生は、本学大学院受験予定であること。なお出願時に成績発表前である学生は GPA を問わない。
- [2] 留学意欲が充分にあり、留学先大学で生活・勉強することができるレベルの語学能力を有すること。
- [3] 志望する留学先大学の語学条件を満たしていること。

募集概要

留学先大学・募集人数は、年度により異なります。出願する年度・時期の募集要項を国際教育センターホームページで確認してください。

【参考】2016 年度交換留学募集概要

留 学 先	【第Ⅰ期（2～3月出発） オーストラリア，韓国 【第Ⅱ期（8～9月出発） アイルランド，アメリカ，イギリス，カナダ，オランダ，スイス，台湾，中国， ドイツ，フランス，ブルガリア
募 集 人 数	【第Ⅰ期】30名程度 【第Ⅱ期】100名程度
出願受付時期	【第Ⅰ期】7月 【第Ⅱ期】11月
選 考 方 法	書類審査・面接審査

対象奨学金

- ・東洋大学交換留学奨学金（交換留学生全員へ支給されます。申請は不要です。）
- ・東洋大学海外留学促進奨学金「グローバルリーダー型」（対象者には大学から通知をします。申請は不要です。交換留学奨学金との併給はできません。）

②認定留学

認定留学制度とは、協定校の枠にとらわれず、学位授与権のある海外の大学へ留学する制度です。大学への出願・入学手続きは原則として各自で行いますので、留学に先立って十分な情報を収集し、綿密な計画を立てることが不可欠です。

応募資格

国際教育センターへの出願時において以下の2点を満たしていること。

- 〔1〕 本学の学部1～3年生，本学大学院進学予定の4年生，大学院生であること。
- 〔2〕 留学先大学からの入学許可書を入手していること。

募集概要

留 学 先	学位授与権のある海外の大学の中から自由に選べます。 ※大学附属の語学学校，短期大学，専門学校等は不可。
募 集 人 数	15名程度
出願受付時期	春学期終了後に出発する場合（8～9月留学開始）：4月15日 秋学期終了後に出発する場合（2～3月留学開始）：11月15日 それ以外の時期に出発する場合：出発日の5ヶ月前 （例：5月1日に出発する場合は，前年の12月1日が締切日となる。） ※申請期日に窓口が閉室する場合，その翌日を期日とする。
選 考 方 法	書類審査・面接審査

対象奨学金

- ・東洋大学認定留学奨学金（認定留学生全員へ支給されます。申請は不要。）
- ・東洋大学海外留学促進奨学金「アクティブ型」（要申請）

③協定校語学留学

協定校語学留学とは、本学の海外協定校が運営する語学学校へ3～6ヶ月間留学するプログラムです。語学力の向上を目的とし語学を学びながら異文化体験をします。

応募資格

出願時において、本学の学部1～3年生であること。 ※語学力は問いません。

研修先・内容

留学先大学・募集人数は、年度により異なります。出願する年度・時期の募集要項を国際教育センターホームページで確認してください。

【参考】過年度協定校語学留学募集国・人数

春 学 期	アイルランド (20名), アメリカ (25名), イギリス (20名)
秋 学 期	アイルランド, アメリカ, イギリス, カナダ (各コース15名)

対象奨学金

- ・東洋大学協定校語学留学奨学金（出願時に所定の語学条件を満たした方へ支給されます。申請は不要です。）
- ・東洋大学海外留学促進奨学金「アクティブ型」（要申請）

④短期語学セミナー

本学では、国際教育センター企画で夏季および春季休暇を利用した1～2ヶ月間の短期語学研修プログラムを実施しています。語学研修、学生交流、ホームステイ等を通し、語学力の向上および異文化理解を目的としています。

応募資格

本学の学部、大学院生であること。 ※語学力は問いません。

研修先・内容

募集年度の「国際交流プログラムパンフレット」または国際教育センターホームページで確認してください。

【参考】過年度国際教育センター企画語学セミナー募集国・人数

春 学 期	アメリカ, イギリス, カナダ (各コース30名)
秋 学 期	アイルランド, アメリカ, オーストラリア, 中国 (各コース30名)

対象奨学金

東洋大学海外留学促進奨学金「ファーストステップ型」（要申請）

◎海外留学プログラムについての問合せ

国際教育センター [国際部国際推進課] (白山キャンパス 8号館 2階)

ホームページURL: <http://www.toyo.ac.jp/life/15/22/>

◎学籍・履修・単位認定についての問合せ

教学課窓口 (4号館 1階)

Ⅵ. 学籍および各種証明書について

1. 学籍（学籍異動に関する手続き）

学 籍

入学の手続きを完了し、学生証の交付を受けた学生は、本学の在籍者としての身分を有することになります。入学後卒業までの間、原則として、学期初めの指定された期間内に所定の学費を納入しない場合、本学の在籍者としての身分を失うことになります（除籍の項を参照してください）。

○在学年数

引き続き在学できる最長年限は8年です。ただし、休学期間は在学年数に算入されません。

○学籍簿

入学時に、教学課に提出した学籍簿には、本人が特定でき、かつ学生としての身分が明確になるような内容が記載されています。これは、学生の身分を証明する基礎となる大変重要なものであり、永久かつ厳重に保管されるものです。

○オンライン入学手続

入学時に、オンライン入学手続により入力された学生の個人情報は、個人情報保護法に基づき管理され、事務処理等に使用されています。入力事項に変更が生じた場合は、ToyoNet-Gを利用して修正するか、または所定用紙に記入し、必ず教学課へ届け出てください。これを怠ると大学からの重要なお知らせが届かない等の不利益を被る場合があります。

なお、届け出る必要のある変更事項は、下の表のとおりです。

項 目	受 付	備 考
本人氏名変更（改姓・改名）	教学課窓口	戸籍抄本が必要
本人住所変更	教学課窓口もしくは ToyoNet-G	外国人留学生は Web 上で変更した後「住民票・在留カード（コピー）」を教学課窓口へ提出
通学区間変更（最寄駅）	教学課窓口もしくは ToyoNet-G	学生証を教学課に持参すること
保証人変更	教学課窓口	保証人の署名捺印が必要
緊急時連絡人変更	教学課窓口	
保証人・緊急時連絡人住所変更	教学課窓口もしくは ToyoNet-G	
保証人勤務先変更	教学課窓口もしくは ToyoNet-G	
本籍地変更	教学課窓口	住民票（本籍地の記載のあるもの）又は戸籍抄本が必要

※電話番号のみ変更した場合も ToyoNet-G で変更してください。

セメスター制

総合情報学部では1年を2学期に分けたセメスター制を採用しています。学期ごとに休学等の学籍異動が可能です。

（春学期：4月1日～9月30日）
（秋学期：10月1日～3月31日）

※ただし、春学期の終了日及び秋学期の開始日は年度によって異なりますので、『学生生活ハンドブック』で確認してください。

学 生 証

学生証は本学学生としての身分を証明するものです。常に携帯し、次のような場合これを呈示しなければなりません。学生証は発行から4年間使用します。

- (1) 本学教職員からの請求があった場合
- (2) 定期試験を受ける場合

(3)各種証明書や学生旅客運賃割引証明書（学割）等の交付を受ける場合

(4)通学定期乗車券や学生割引乗車券を購入する際と、それを利用して乗車船し係員の請求があった場合など
※他人に貸与または譲渡することはできません。

※有効期間は4月1日から次年度の4月15日までです。

※裏面に通学定期乗車券発行用のシールが貼付されていないものは無効です。

○学生証の更新手続

学生証は、毎年4月初旬の進級手続期間内に必ず当該年度の学費を納入の上、学生証の更新手続を受けなければなりません。

○学生証の返還

卒業または退学する場合や除籍された場合は、必ず学生証を返還しなければなりません。

○学生証の再発行

学生証を紛失もしくは破損・汚損した場合は、直ちに届け出、次の手続きをして再発行を受けなければなりません。

紛失した場合…教学課窓口で再発行の手続きをしてください。

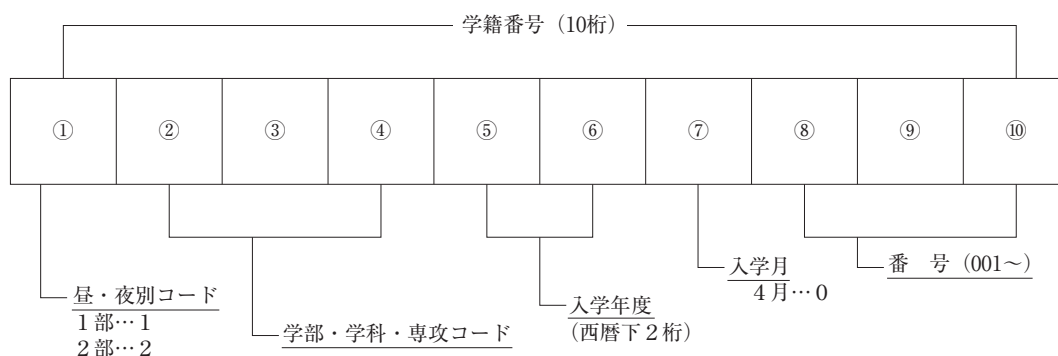
汚損・破損した場合…汚損・破損した学生証を教学課窓口を持参し、再発行の手続きをしてください。

※いずれの場合も、手数料（2,000円）が必要です。手続後1週間後の発行となります。

学籍番号（学生証に記載されている番号）

入学の手続きを完了した学生には、学籍番号が与えられ学生証に記載されます。この学籍番号は、転部転科や再入学、その他特別の理由がない限り卒業まで変わることはありません。

履修登録、試験の答案用紙、各種の届出、証明書の申請等で必要となりますので、正確に記憶しておいてください。



(例) 総合情報学部総合情報学科に2016年度4月入学した321番の学生の学籍番号は『1B10160321』番となります。

進 級

休学者が復学した場合などの特別な事情がない限り、原則として上級へ進級します。

4年原級

卒業できない場合は4年次に原級となり、以後在学最長年限（8年）まで4年生となります。

卒業できなかった学生は、教学課から郵送される通知にしたがって原級手続きを行い、当該年度の正規4年生と同額の学費を納入しなければなりません。原級に関する手続きを怠ると除籍になります。

なお、総合情報学部についてはセメスター制を実施しておりますので、**セメスター毎（半年毎）**に手続きが必要となります。

休 学

病気、家庭の事情などの理由で、3ヵ月以上修学することができない場合は、大学の許可を得て休学することができます。

○休学の期間

休学の届け出日に関わらず、休学の期間は、下記のとおりです。

4月入学生 第1期 4月1日～9月30日
第2期 10月1日～3月31日

- ・休学の期間が終了した場合は、次学期の開始日付で復学することになります。
- ・原則として、2セメスターを超える休学はできません。復学できない場合は、教学課へ相談してください。
- ・休学の期間は、通算して8学期を超えることはできません。
- ・休学をした学期の履修登録は全て無効となります。

○休学の手続

- ・休学を希望する場合は、許可願用紙に必要事項を記入し保証人連署の上、学生証を添えて教学課へ提出してください。担当教員による面談を行います。なお、病気等による場合は医師の診断書が必要です。
- ・休学が許可された場合は、休学許可書を保証人宛に郵送します。
- ・休学の手続き期限は、その年度の春学期6月30日、秋学期12月31日までです。
- ・手続きは原則として学生本人が行ってください。ただし、やむを得ない事情がある場合は、教学課へ相談してください。

○休学与学費

- ・期の初めの休学の場合、その期の授業料・実験実習料は徴収しません（一般施設設備資金のみ徴収）。既に、納入されている場合は返金します。
- ・期の途中で休学届が出された場合、その期の授業料・一般施設設備資金・実験実習料は徴収します。

休学者の復学

○復学の手続

- ・休学者には、復学手続の案内および必要書類を、保証人宛に郵送します。（留学生には本人宛）
- ・復学する場合は、手続の案内に従って、指定された期間内に許可願用紙の必要事項を記入し、保証人連署の上、学生証を添えて教学課へ提出しなければなりません。
- ・復学、休学、退学いずれかの手続を取らない学生は除籍となります。

○復学与学費

休学者が復学する場合の学費は、入学年次と同額になります。

○復学者の履修方法

- ・休学期間中の履修登録科目はすべて無効となります。
- ・復学した学生は、復学する学年以下に配当されている科目について履修することができます。

※なお、詳細な履修方法については、復学の手続き終了後、教学課で履修指導を受けてください。

退 学（依頼による退学）

事情により本学での修学継続が困難な場合は、大学の許可を得て、退学することができます。

○退学の手続

- ・事情により退学を希望する場合には、保証人と十分相談の上で、所定の許可願用紙に必要事項を記入し保証人連署の上、学生証を添えて教学課へ提出してください。
- ・退学が許可された場合は、退学許可書を保証人宛に郵送します。

○退学と学費

退学する場合は、学費は原則として全納していなければなりません。

退 学（懲戒による退学）

本学の規則に反し、または学生の本分に反する行為があったものは、大学の決定を受けて懲戒となります。この場合、学生証を返還しなければなりません。なお、懲戒退学に該当する行為は学則第57条に定められています。

除 籍

指定された期間内に学費を納入しない学生・在学年限を超えた学生・休学期間を超えた学生・新入生で指定された期間内に履修登録を行わなかった学生等は、学則第38条により除籍となります。除籍は、学籍の抹消として処理されます。この場合、保証人宛に除籍通知書を郵送します。また、学生証を返還しなければなりません。除籍者より在籍期間証明書の申請があった場合には「除籍」を明記した証明書を発行します。

再 入 学

○再入学の手続

- ・退学および除籍となった学生が再入学を希望する場合は、1月末（7月末）までに許可願用紙に必要事項を記入し、保証人連署の上、教学課に提出してください。
- ・再入学が、大学の決定を受けて許可された場合は、次学期の開始日付で再入学することができます。

※ただし、入学してから退学（除籍）までの期間を含めて、在学年数が通算8年以内に卒業が見込まれる場合でなければ再入学は認められません。

○再入学の納付金

- ・再入学する場合の納付金は、再入学する学年次の額を適用します。入学金は、再入学する年度の新入生の額の半額となります。

○再入学者の履修方法

- ・再入学する学年は、原則として退学（除籍）時の学年になりますが、単位修得状況によっては学年を繰り下げる場合もあります。また、学科教育課程表が入学年度と変わっている場合には、再入学する学年の学科教育課程表が適用される場合があります。

※なお、詳細な履修方法については、再入学の手続き終了後、教学課で履修指導を受けてください。

転部・転科

本学内で転部・転科を希望する学生に対して試験を行います。

第1部（昼）の学生の場合は、第1部（昼）内の他学部・他学科への転部・転科、および第2部（夜）への転部・転科となります。

また、転部・転科の対象は、2年及び3年への進級時となります。学部・学科によって異なりますので試験要項でよく確認してください。

○転部・転科試験の手続

- ・試験要項は秋学期以降に、教学課窓口にて配布します。受験希望者は試験要項にしたがって手続きをとり、12月に実施される試験を受けてください。
- ・合格発表は、3月下旬に行います。

※転部・転科試験の手続きに関しては、掲示で発表しますので注意してください。なお、詳細は、秋学期開始後に教学課へ相談してください。

○転部・転科と学費

学費は転部・転科先の学年の学生と同額です。ただし、入学金については、転部・転科先と比べて差額がある場合は、不足分を納入することになります。

科目等履修生

卒業後特定の科目について学修しようとする学生には、科目等履修生として、科目履修を許可する制度があります（本学在学中は、科目等履修生になることはできません）。

○科目等履修生は、検定料として20,000円、登録料として10,000円、履修料として半期科目1科目につき20,000円が必要となります。

○原則として実験・実習および実技については履修できません。

○次年度科目等履修生募集要項については2月上旬より教学課窓口にて配布します。また、本学ホームページからもダウンロードすることができます。

学位授与機構での学位の取得

東洋大学を卒業しなくとも、単位の修得状況によっては「学位授与機構」で学位（学士）の取得が可能です。教学課にご相談ください。

2. 各種証明書および実習料一覧

各種証明書（発行必要期間は窓口で指示）

教学課では、下の表のような証明書を発行しています。

①～④——学生証と4桁の暗証番号により東洋大学証明書発行機で発行します。

⑤～⑭——窓口発行となります。

種 類	手数料 (円)	発行可能 学年	備 考
①在学証明書	100	1～4年生	白山・朝霞・川越・板倉いずれのキャンパスの発行機でも発行しています。
②卒業見込証明書	100	4年生	
③成績証明書 ※注	100	1～4年生	
④健康診断証明書	100	1～4年生	
⑤卒業証明書	200		
⑥成績証明書（卒業生）	200		
⑦学生証再発行	2,000		
⑧教員免許状取得見込証明書	100		
⑨単位修得証明書	300		
⑩人物証明書	200		本学書式の場合
⑪在籍証明書（休学者）	300		
⑫英文成績証明書	1,000		
⑬英文卒業（見込）・在学証明書	500		
⑭その他の証明書	300		

◎学生証再発行についての詳しい手続き方法は1. 学籍（学籍異動に関する手続き）「学生証」の項を参照してください。

◎人物証明書発行については、教学課所定の用紙に、演習・卒論担当教員との面接により記入してもらいます。その後、教学課へ持参し、証明書作成手続きをしてください。

※注 1年生については第2セメスター以降の発行となります。

実習料他

大学では、必要に応じ下の表のような実習料などを受付けます。実習料を納入する場合には、教学課窓口の指示に従ってください。

種 類	金 額 (円)	備 考
教 職 課 程 登 録 料	30,000	
教 育 実 習 料	3週間実習 15,000	4年生
	2週間実習 10,000	
教員免許状申請料	1教科 3,600	4年生
転部・転科試験受験料	10,000	1～2年生
卒業再試験受験料	1科目 5,000	4年生

3. 学則（学籍に関する事項の抜粋）

平成27年4月1日現在
最新の学則は大学ホームページをご確認ください

第3章 修学等

第1節 修業年限

（在学年限）

第20条 卒業に必要な単位を修得するために在学できる年数（以下「在学年数」という。）は、通算して8年を限度とする。この場合において、休学年数は在学年数に算入しない。

2 再入学又は編入学をした者の在学年数は、前項の在学年数から再入学又は編入学までの通常の在学の年数を控除した年数とする。

第4章 入学、退学、休学及び除籍等

第1節 入学、留学等

（入学の時期）

第24条 入学期は、学期の初日から30日以内とする。

（入学資格）

第25条 学部第1年次に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- 一 高等学校を卒業した者
- 二 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- 三 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- 四 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- 五 文部科学大臣が指定した者
- 六 大学入学資格検定（平成17年1月31日規程廃止）に合格した者
- 七 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- 八 その他本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

（入学の志願・選考）

第26条 入学志願者は、所定の書式による入学願書を提出し、別表（4）の1に定める入学検定料を納入し、かつ、選考試験を受けなければならない。

（入学の手続き）

第27条 入学を許可された者は、入学金を納入し、所定の書式により誓約書を提出しなければならない。

（保証人）

第28条 保証人は、父、母又はその他の成人者で独立の生計を営む者でなければならない。

2 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負う。

3 学生は、保証人を変更し、又はその氏名若しくは居住地に変更があったときは、速やかに変更届を提出しなければならない。

（学生証）

第29条 入学手続きを終えた者には、学生証を交付する。

（編入学）

第30条 次の各号の一に該当する者が本学に編入学を希望するときは、選考の上、編入学を許可することができる。

- 一 短期大学を卒業した者
- 二 大学を卒業した者
- 三 高等専門学校を卒業した者
- 四 専修学校の専門課程（文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者

2 編入学に関する規程は、別に定める。

（転入学）

第31条 他の大学の学生が、その大学の許可を得て本学に転入学を願い出たときは、転入学を認めることができる。

2 転入学に関する規程は、別に定める。

（転部・転科）

第32条 学生が学部他の部へ、又は他の学部・学科へ転部・転科を願い出たときは、選考の上、これを許可することができる。

2 転部・転科に関する規程は、別に定める。

（留学）

第33条 学長は、学生が外国の大学で学修することを願い出たときは、教授会の意見を聴いて留学を許可することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、在学年数に算入する。

（二重学籍の禁止）

第34条 学生は、他の学部・学科と又は他の大学

と併せて在学することはできない。ただし、本学と本学の協定大学の間で実施されるダブル・ディグリー・プログラム及びジョイント・ディグリー・プログラムへの参加者には適用しない。

第2節 休学、退学、転学及び除籍

(休学)

第35条 学生が引き続き3カ月以上修学できないときは、許可を得て、その学期を休学することができる。

2 休学は、連続する2学期限りとする。ただし、特別の事情がある場合は、学長は教授会の意見を聴いて、2学期を超える期間の休学を許可することができる。ただし、休学の期間は、通算して8学期を超えることはできない。

3 休学期間中に休学の理由が消滅した場合において、復学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(退学)

第36条 退学しようとする者は、その理由を明確にして願い出て、許可を受けなければならない。

2 願いにより退学した者が、再入学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(転学)

第37条 学生が転学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(除籍)

第38条 次に掲げる各号のいずれかに該当する者は、除籍する。

- 一 授業料その他の学費を所定の期日までに納入しない者
- 二 第20条に定める在学年数を超えた者
- 三 第35条第2項に定める休学期間を超えた者
- 四 新入生で指定された期限までに履修届を提出しないこと、その他本学において修学の意思がないと認められる者

2 学生は、除籍されることにより、本学則及びその施行のために定められた規則に基づいて有する一切の権利を失う。

3 第1項の規定（第2号及び第3号に掲げる者を除く。）により除籍された者が、再入学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

第8章 賞罰及び奨学

(懲戒)

第57条 学長は、本学の規則に反し、又は学生の

本分に反する行為があった学生に対し、教授会の意見を聴いて、行為の軽重と教育上の必要とを考慮して、譴責、停学又は退学の処分をすることができる。

2 退学処分は、次の各号の一に該当する者以外には、これを行うことはできない。

- 一 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- 二 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者
- 三 正当な理由なくして出席常でない者
- 四 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した者

2016年度 東洋大学総合情報学部履修要覧

2016年 4月 発行

編集
発行 **東洋大学総合情報学部**

〒350-8585 埼玉県川越市鯨井2100